

令和 4 年度
事業報告書



社会福祉法人 阪南市社会福祉協議会

令和4年 4 月 1 日 ~ 令和5年 3 月 31 日

目 次

1. 阪南市社会福祉協議会概要	
(1) 社協の概要	2
(2) 評議員会名簿	3
(3) 役員名簿	4
(4) 組織構成会員名簿	5
(5) 事務局体制	6
2. 会議	
法人運営に関する会議の開催	7
地域福祉推進に関する会議の開催①	9
地域福祉推進に関する会議の開催②	10
阪南市等が主催する会議への参加	11
その他の会議・研修等	12
3. 事業報告	
(1) 法人本部拠点	
地域支え合い活動協力金事業	16
広報誌発行及びホームページ維持管理事業	17
ボランティアセンター事業	18
小地域ネットワーク推進事業	19
新しいつながりづくりコーディネーター配置事業	22
福祉農園事業	23
アウトリーチ等機能強化事業	24
日常生活自立支援事業	25
生活困窮者自立支援事業	26
福祉資金貸付事業	27
地域介護予防事業	28
民生委員児童委員協議会事務局事業	29
老人クラブ連合会事務局事業	30
生活サポート商品券交付事業	31
生活支援・介護予防サービス協議体運営事業	32
地域交流館管理運営事業	33
善意銀行事業	36
赤い羽根共同募金運動(一般募金)	38
歳末たすけあい運動	39
阪南市地域交流センター「ふれ愛ホーム」事業	40
阪南市介護者(家族)の会支援事業	41
(2) 地域包括支援センター拠点	
総合相談支援業務	42
権利擁護業務	43
包括的・継続的ケアマネジメント	44
地域ケア会議推進事業	46
介護予防・生活支援サービスの体制整備事業への参画・協力	47
在宅医療・介護連携の推進事業	48
介護予防事業普及啓発活動への協力	49
任意事業(介護用品支給事業、住宅改修支援事業、介護相談員派遣事業)	50
認知症施策の推進	51
介護予防サービス計画の作成(指定介護予防支援事業)	53
認知症啓発業務	54
コミュニティソーシャルワーカー(CSW)配置促進事業	55
その他の会議・研修等	57
(3) 不動産賃貸事業拠点	
不動産賃貸業	64

1. 社会福祉法人阪南市社会福祉協議会概要(令和5年3月31日現在)

(1) 社協の概要

名 称	社会福祉法人阪南市社会福祉協議会
設立年月日	昭和 56 年 3 月 31 日
法人認可	昭和 56 年 7 月 15 日
所 在 地	大阪府阪南市尾崎町一丁目 18 番 15 号
評 議 員	現員数 30 名
役 員	【理事】現員数 17 名(内 会長 1 名、副会長 3 名) 【監事】定数 2 名
事 務 局	法人本部(尾崎町一丁目 18 番 15 号) 西鳥取・下荘地域包括支援センター(箱作 3515 番 7)

(2)評議員会名簿

【評議員定数】 25 名以上 30 名以内

【任 期】 令和3年6月2日から令和6年に終了する会計年度のうち最終に関する定時評議員会の終結の時まで

(令和5年3月31日時点)

選出基準	組織構成会員団体名	評議員氏名
住民代表的性格のつよいもの	阪南市自治会連合会	鶴長 一男
	阪南市連合婦人会	吉田 美智子
	阪南市青少年指導員協議会	松岡 英次
	東鳥取校区東鳥取地区福祉委員会	南 敏晴
	上荘校区福祉委員会	宮本 佳子
	朝日校区朝日地区福祉委員会	石丸 征司
	東鳥取校区波太地区福祉委員会	細木 美紀
	朝日校区山中溪地区福祉委員会	池宮 孝一
	尾崎校区尾崎地区福祉委員会	浮田 明
	西鳥取校区福祉委員会	名倉 勲
	舞校区福祉委員会	岩谷 輝雄
	下荘校区下荘地区福祉委員会	百々 信行
	下荘校区箱作地区福祉委員会	斉藤 和夫
福祉専門機関・団体的性格のつよいもの	阪南市民生委員児童委員協議会	北野 和子
	特別養護老人ホーム玉田山荘	田端 律久
	特別養護老人ホーム玉井泉陽園	吉川 晃
	社会福祉法人光生会大阪ピープルハウス阪南	小南 辰之
	特定非営利活動法人子ども NPO はらっぱ	川端 智代
	社会医療法人生長会 阪南市民病院	薫 伸行
	社会福祉法人日本ヘレンケラー財団 さつき園・まつのき園	打越 寛子
	社会福祉法人阪南福祉会 しいの実こども園	山野 守彦
	阪南市役所生涯学習部長	伊瀬 徹
	阪南市更生保護女性会	木村 厚子
当事者団体的性格のつよいもの	阪南市障がい者団体連絡協議会	南 久美子
	阪南市老人クラブ連合会	吉岡 護昭
	阪南市介護者（家族）の会	池田 昌子
関連分野・団体	阪南市歯科医師会	中道 一範
	泉南薬剤師会	八田 守也
	阪南市人権協会	中井 孝幸
その他学識	阪南市議会	岩室 敏和

(3)役員名簿

【役員定数】理事 15名以上17名以内 監事 2名

【任 期】 令和3年6月2日から令和5年度初回の定時評議員会まで 令和5年3月31日時点

役 職	氏 名	選出母体	備 考
会 長	つの 築野 由照	桃の木台校区福祉委員会	
副会長	たなか ちよこ 田中 千余子	阪南市介護者(家族)の会	
副会長	くるまたに まさこ 車谷 雅子	民生委員児童委員協議会	
副会長	くさたけ やすのり 草竹 靖典	阪南市自治会連合会	
理 事	もりした じゅんじ 森下 順二	東鳥取校区東鳥取地区福祉委員会	
理 事	こうたき きだみ 上瀧 定三	朝日校区朝日地区福祉委員会	
理 事	みさわ とうじ 三澤 統治	朝日校区山中溪地区福祉委員会	
理 事	とみおか ひろむ 富岡 弘	尾崎校区福島地区福祉委員会	
理 事	ねごろ しげる 根来 茂	西鳥取校区福祉委員会	
理 事	しまづ かつひこ 嶋津 克彦	阪南市商工会	
理 事	たまき たみこ 玉置 多美子	阪南市社会福祉協議会ボランティアセンター	
理 事	にった ますひろ 新田 升啓	阪南市社会福祉施設連絡会	
理 事	むらかみ えいじ 村上 英司	特定非営利活動法人 くらしのたすけあいえぷろんの会	
理 事	まつわか りょうすけ 松若 良介	泉佐野泉南医師会	
理 事	しんじ こうじ 宍道 厚治	阪南市 健康福祉部長	
理 事	ほんだ かずたか 本田 和隆	学識経験者 地域福祉推進計画作業委員長	
理 事	みなみ しんいち 南 真一	事務局長	
監 事	いじり けんじ 井尻 健治	税理士	
監 事	おけたに けんじ 桶谷 建二	社会福祉法人有誠会下出作業所施設長	

(4)組織構成会員

所 属 領 域	番号	団 体 名
〈領域Ⅰ〉 住民代表的性格のつよいもの	1	阪南市自治会連合会
	2	阪南市連合婦人会
	3	阪南市商工会
	4	阪南市青少年指導員協議会
	5	東鳥取校区東鳥取地区福祉委員会
	6	上荘校区福祉委員会
	7	朝日校区朝日地区福祉委員会
	8	東鳥取校区波太地区福祉委員会
	9	朝日校区山中溪地区福祉委員会
	10	尾崎校区尾崎地区福祉委員会
	11	尾崎校区福島地区福祉委員会
	12	西鳥取校区福祉委員会
	13	舞校区福祉委員会
	14	下荘校区下荘地区福祉委員会
	15	下荘校区箱作地区福祉委員会
	16	桃の木台校区福祉委員会
〈領域Ⅱ〉 福祉専門機関・団体的性格のつよいもの	17	阪南市民生委員児童委員協議会
	18	社会福祉法人玉田山福祉会 特別養護老人ホーム玉田山荘
	19	社会福祉法人大泉会 特別養護老人ホーム玉井泉陽園
	20	社会福祉法人大泉会老人保健施設メデケアタマイ
	21	社会福祉法人光生会大阪ビーブルハウス阪南
	22	社会福祉法人友愛の里
	23	社会福祉法人野のはな
	24	社会福祉法人三秀會 海曇
	25	特定非営利活動法人くらしのたすけあい えぶるんの会
	26	特定非営利活動法人はあとの会
	27	有限会社大城介護サービス
	28	リボン介護サービス
	29	デイ介護サービスリブ
	30	グループホーム白馬
	31	社会福祉法人さくら
	32	グループホームはるすのお家・阪南
	33	医療法人なぎさ会
	34	社会医療法人生長会 阪南市民病院
	35	社会福祉法人日本ヘレンケラー財団 阪南市立さつき園・まつのき園
	36	社会福祉法人有誠会下出作業所
	37	社会福祉法人舞福祉会 舞グリーンフレンズ
	38	社会福祉法人ほけつと福祉会 ワークセンターほけつと
	39	NPO法人ハートワークひだまり
	40	社会福祉法人根来学園 ワンワン認定こども園
	41	社会福祉法人阪南福祉会 しいの実こども園
	42	社会福祉法人任天会幼保連携型認定こども園桃の木の森こども園
	43	特定非営利活動法人子どもNPOはらっぱ
	44	阪南市役所福祉部長
	45	あじさいサークル
	46	阪南支部保護司会
	47	阪南市更生保護女性会
	48	公益社団法人阪南市シルバー人材センター
	49	ケアショップ ハル
	50	社会福祉法人レーベンダングライフケア尾崎
	51	はいむケアサービス
	52	一般社団法人やまなみ福祉会 生活介護事業所 きずな
	53	阪南郷土探究クラブ
	54	株式会社Higashi
	55	一般社団法人リュウ
	56	医療法人藪下脳神経外科・内科
	57	特定非営利活動法人スウェル
	58	社会福祉法人ブロードハーモニィ
	59	特定非営利活動法人地域福祉創造協会ウイंक阪南市たんぽぽ園
	60	株式会社 あいケアサーブ
	61	一般社団法人 泉州バリアフリー協会
	62	都エンタープライズ
〈領域Ⅲ〉 当事者団体的性格のつよいもの	63	さつき園家族会
	64	阪南市視力障がい者福祉協会
	65	阪南市聴力障がい者協会
	66	阪南市精神障がい者協議会
	67	阪南市老人クラブ連合会
	68	阪南市介護者(家族)の会
	69	学校に行きたがらない子どもを持つ親の会フラワーズ
	70	あざみ会
〈領域Ⅳ〉 関連分野、団体	71	和泉学園
	72	泉佐野泉南医師会阪南支部
	73	泉佐野泉南歯科医師会第6班
	74	泉南薬剤師会
	75	阪南市人権協会
〈領域Ⅴ〉 その他学識	76	阪南市議会

(5) 事務局体制



法人運営に係る会議の開催

【理事会の開催状況】

日 時	回	議 案
令和 4 年 5 月 17 日	1	第 1 号議案 令和3年度 事業報告について 第 2 号議案 令和3年度 決算書について 第 3 号議案 令和3年度 監事監査報告について 第 4 号議案 阪南市社会福祉協議会財政健全化の方針の進捗状況について 第 5 号議案 経理規程の一部改正について 第 6 号議案 自然田不動産の売却依頼について 第 7 号議案 新しいつながりづくりコーディネーター配置事業の受託について 第 8 号議案 欠員評議員候補者及び交替評議員候補者の推薦について 第 9 号議案 令和4年度 第1回定時評議員会の招集について
令和 4 年 8 月 23 日	2	第1号議案 欠員の副会長1名の選任について 第 2 号議案 育児・介護休業規程の一部改正について 第 3 号議案 令和4年度職員の賞与(期末手当)の改正支給について 第4号議案 阪南市生活サポート商品券交付事業受託について 第5号議案 令和3年度・令和4年度共同募金運動について 第6号議案 令和4年度第2回臨時評議員会の招集について
令和 4 年 11 月 28 日	3	第1号議案 令和5年度以降の阪南市自立相談支援等業務委託プロポーザルへの参加について 第 2 号議案 地域歳末たすけあい運動について 第 3 号議案 令和4年度第一次補正予算編成について
令和 4 年 12 月 13 日	4	第1号議案 令和4年度 上半期監事監査報告について 第 2 号議案 令和4年度 第一次補正予算(案)について 第 3 号議案 令和4年度 第3回臨時評議員会の招集について
令和 5 年 2 月 14 日	5	第1号議案 欠員の副会長1名の選任について 第 2 号議案 非常勤職員就業規則及び給与規程の一部改正について 第 3 号議案 阪南市「一般職員の給与に関する条例」等の一部改正に伴う職員給 いて 第4号議案 令和5年度 当初予算編成の方向性について 第5号議案 役員等賠償責任保険契約締結について 第6号議案 令和4年度 第4回定時評議員会の招集について
令和 5 年 3 月 14 日	6	第1号議案 令和4年度 第二次補正予算(案)について 第2号議案 令和5年度 事業計画(案)について 第3号議案 令和5年度 当初予算(案)について 第4号議案 令和4年度 第4回定時評議員会の開催について 第5号議案 評議員選任・解任委員会の開催について

【評議員会の開催状況】

日 時	回	議 案
令和 4 年 6 月 16 日	1	第1号議案 令和3年度事業報告について 第2号議案 令和3年度決算書について 第3号議案 令和3年度決算監査報告について 第4号議案 阪南市社会福祉協議会財政健全化の方針の進捗状況について 第5号議案 経理規程の一部改正について 第6号議案 自然田不動産の売却依頼について 第7号議案 新しいつながりづくりコーディネーター配置事業の受託について 第8号議案 欠員理事2名の選任について
令和 4 年 9 月 22 日	2	第1号議案 育児・介護休業規程の一部改正について 第2号議案 令和4年度職員の賞与(期末手当)の改正支給について 第3号議案 阪南市生活サポート商品券交付事業受託について 第4号議案 令和3年度・令和4年度共同募金運動について
令和 4 年 12月 22 日	3	第1号議案 令和4年度 監事監査報告について 第2号議案 令和4年度 第一次補正予算(案)について 第3号議案 令和4年度 地域歳末たすけあい運動について 第4号議案 欠員理事2名の選任について
令和 5 年 3 月 23 日	4	第1号議案:非常勤職員就業規則及び給与規程の一部改正について 第2号議案:阪南市「一般職の職員の給与に関する条例」等の一部改正に伴う職員給与の改定について 第3号議案:令和4年度 第二次補正予算(案)について 第4号議案:令和5年度 事業計画(案)について 第5号議案:令和5年度 当初予算(案)について

【評議員選任・解任委員会の開催状況】

日 時	回	議 案
令和 4 年 5 月 23 日	1	議長の選出、評議員の選任(4名)について

【監事監査の実施状況】

日 時		議案
令和 4 年 5 月 9 日	1	令和 3 年度 監事監査について
令和 4 年 11 月 7 日	2	令和 4 年度 上半期監事監査について

地域福祉推進に係る会議の開催①

(1) 会議概要

名 称	地域福祉推進連絡協議会
開催期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
会議の趣旨	阪南市地域福祉推進計画の策定や進捗管理をおこない、地域福祉推進に関わる公民それぞれの情報交換や意見交換をおこなう
構成員	公募市民、各種団体代表、校区福祉委員会、行政関係課、関係機関等
参 加	社協副会長3名、事務局長、地域担当職員

(2) 開催実績

日 時	名 称	主 な 内 容
令和4年8月22日 (月)14:00～16:00	第1回阪南市 地域福祉推進 連絡協議会	1. 第3期地域福祉推進計画及び同実施計画の進捗状況について 2. 第4期地域福祉推進計画及び同実施計画の策定について 3. 令和4年度重層的支援体制整備事業実施計画(案)について
令和4年12月19日 (月)14:00～16:00	第2回阪南市 地域福祉推進 連絡協議会	1. 第4期阪南市地域福祉推進計画の素案について
令和4年5月26日 (木)14:00～16:45	第1回阪南市 地域福祉推進 計画作業員会	1. 第4期地域福祉推進計画及び同実施計画の策定のためのグループ討議 1部テーマ つなぐ、つながる ～困りごとを受け止め支え合う地域福祉のネットワークづくり～ 2部テーマ みんなが担い手に ～地域の福祉活動を支える多様な担い手づくり～
令和4年7月4日 (月)14:00～16:45	第2回阪南市 地域福祉推進 計画作業員会	1. 第4期地域福祉推進計画及び同実施計画の策定のためのグループ討議 1部テーマ 出会う・過ごす・活躍する ～より身近な多機能型の居場所づくり～ 2部テーマ 「他人事」から「私事」に ～「共に暮らす」を育む福祉のまちづくり～
令和4年11月7日 (月)14:00～16:45	第3回阪南市 地域福祉推進 計画作業員会	1. 第4期地域福祉推進計画及び同実施計画の策定のためのグループ討議 テーマ 第4期地域福祉推進計画及び同実施計画の素案について

地域福祉推進に関する会議の開催②

(1) 会議概要

名 称	校区長・事務長会議
開催期間	令和4年5月～令和5年3月(奇数月 年6回開催)
会議の趣旨	校区福祉委員会の主要な役員である校区長・事務長を対象に、社協事業や校区福祉委員会活動に関する情報提供や意見交換をおこなう。また、6回の会議の内、1回はボランティアコーディネーターも参加いただき情報交換をおこなう。
構成員	各校区福祉委員長、事務長、ボランティアコーディネーター 社協会長、副会長、理事、事務局
参 加	事務局長、地域担当職員、地域包括支援センター、総務 G 主任、 権利擁護 G 主任

(2) 開催実績

日 時	主な内容
令和4年5月13日	(1) 令和4年度地域支え合い活動協力金について (2) ふくしのまちづくりビジョンについて
令和4年7月8日	(1) ふくしのまちづくりビジョンについて (2) 令和4年度(第76回)共同募金運動実施について
令和4年9月9日	(1) ふくしのまちづくりビジョンについて (2) 令和4年度(第76回)共同募金運動実施について (3) 令和5年度阪南市当初予算への要望について
令和4年11月11日	(1) 令和4年度歳末たすけあい運動について
令和5年1月13日	(1) 令和5年度介護予防事業の方向性について
令和5年3月3日	(1) 次期役員及び評議員の地区選出について (2) 令和5年度介護予防事業について (3) 各種年次報告提出の依頼について

阪南市等が主催する会議への参加

(1) 会議概要

	名 称	所 管	担当
全 般	阪南市赤十字奉仕団	日本赤十字社大阪府支部（市 危機管理課）	会長・副会長
	地域医療を共に創る会	市健康増進課	会長・副会長
	阪南市総合計画審議委員	政策共創室	会長
	阪南市自治基本条例推進委員	政策共創室	田中副会長・猪俣
	阪南市防災会議	市危機管理課	会長
	阪南市人権協会	阪南市人権推進課	会長
	阪南市シルバー人材センター 理事	シルバー人材センター	会長
	大阪府共同募金会 評議員	大阪府共同募金会	会長
	阪南地区募金会 会長	大阪府共同募金会	会長
	阪南市社会教育委員会議	生涯学習推進室	会長
	公民館運営審議会	生涯学習推進室	局長
	阪南市子ども読書活動推進協議会	市立図書館	置田
	市町村社協連合会（会長・事務局長会）	大阪府社協	会長・局長
	市町村社協連合会（泉州ブロック会議）	大阪府社協	吉川
	阪南市市民協働推進委員会	政策共創室	坂上
高 齢	阪南市介護保険運営協議会	介護保険課	会長・熊抱
	阪南市地域密着型サービス運営委員会		
	阪南市地域包括支援センター運営協議会		
	阪南市医療と介護の多職種連携会議	介護保険課	坂上
障 が い	阪南市障害者施策推進協議会	市民福祉課	局長
	阪南市岬町自立支援協議会	市民福祉課	坂上
児 童	阪南市子ども子育て会議	子ども家庭課	吉川
	阪南市要保護児童対策協議会代表委員	子ども家庭課	局長
	泉鳥取高校学校協議会	泉鳥取高校	坂上

その他の会議・研修等

対外的な視察受け入れ・事例発表等

【視察・ヒアリング受け入れ】

日 程	名 称	対 応
6 月 14 日	さわやか福祉財団 視察受け入れ 阪南市の生活支援体制整備事業と箱の浦自治会まちづくり 協議会の取り組み見学	猪俣、坂上
8 月 3 日	川西市社会福祉協議会 ヒアリング 第1層生活支援コーディネーター活動について	坂上
9 月 13 日	大阪市立大学・アンドリュース大学インターンシップ受け入れ 「農福連携事業について」	猪俣、坂上

【事例報告等】

日 程	名 称 （主催／場所）	登壇者
6 月 10 日	同志社大学 社会福祉実習Ⅴ 講義 「地域福祉の現場と実践について」	猪俣
7 月 24 日	日本福祉大学大学院夏季ゼミナール 「重層的支援体制整備事業について」報告	猪俣
8 月 2 日	特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター 「生活支援コーディネーター養成オンライン研修」報告	坂上
8 月 24 日	阪南市人権教育研究会 教員向け研修 「地域まるごとですすめる教育×福祉」報告	坂上、置田
9 月 7 日	大阪府 「泉州ブロック重層的支援体制整備研修」報告	猪俣、坂上
9 月 8 日	筑後市社会福祉協議会 校区福祉会連絡協議会 視察研修会「地域福祉活動について」オンライン講演	猪俣、坂上
10 月 21 日	福岡県社協地域活動職員連絡会主催研修 「社協がめざす地域福祉とは」講演	猪俣
11 月 10 日	筑後市社会福祉協議会 住民福祉のつどい 「ありがとうを言える言われる人が増えるまちづくり」講演	猪俣
11 月 19 日	全国社会福祉協議会 全国ボランティア・市民活動振興セン ター「ボランティア全国フォーラム 2022」報告	坂上
12 月 23 日	宮崎県社協 市町村社協職員研修会 講演 「連携と協働が生み出すチカラ」	猪俣
令和5年 1 月 18 日	宝塚市社協 情報発信・広報強化プロジェクト講師 「情報発信・組織横断の取り組み」	猪俣
1 月 20 日	大阪公立大学(大阪府立大学)地域福祉論 B 講義 「コミュニティワーカー」	猪俣

1月24日	大阪府「大阪ええまちプロジェクト生活支援コーディネーター養成研修」コーディネート	坂上
2月9日	大阪府「生活困窮者自立支援制度人材養成研修」講演	坂上

【メディア掲載】

日時	名称	対応
4月～	放送大学「地域福祉の課題と展望（第3回）」出演 「福祉教育実践について」	猪俣
10月、11月	NOMA社協情報誌（令和4年10・11月合併号）への原稿執筆 「協働により生まれた『少年院ボランティア活動』が地域と少年自身をかえる」	坂上
令和5年 1月31日、 2月9日	NHK「おはよう関西」、NHK「おはよう日本」 「泉南学寮グリーンサポーター活動」	猪俣、坂上

人権研修

日程	名 称 （主催／場所）	参加者
7月26日	阪南市ヒューマンライツセミナー 「障がい者と人権」 （阪南市、人権協会他／尾崎公民館）	吉村
9月2日	阪南市ヒューマンライツセミナー 「子どもの人権」 （阪南市、人権協会他／サラダホール）	西浦、堂前
8月26日	阪南市ヒューマンライツセミナー 「女性の人権をめぐる いま」 （阪南市、人権協会他／尾崎公民館）	田中

階層別研修・事業別研修 （※地域包括分は後述）

日 程	名 称 （主催）	参加者
4月19日	令和4年度市町村社協新任職員研修会【1日目】(集合)	檜葉 茂野
4月27日	令和4年度市町村社協新任職員研修会【2日目】(Zoom)	檜葉 茂野
5月2日	令和4年度市町村社協新任職員研修会【3日目】(Zoom)	檜葉 茂野
5月10日	令和4年度市町村社協新任職員研修会【4日目】(Zoom)	檜葉 茂野
5月17日	令和4年度市町村社協新任職員研修会【5日目】(集合)	檜葉 茂野

6月10日	日常生活自立支援事業 新任者研修	中山
6月21日	日常生活自立支援事業 新任者研修	中山
6月28日	社協が取り組む子ども食堂との協働実践研修会	中口
9月12日	令和4年度重層的支援体制構築推進人材養成研修:基礎編①(Zoom)	吉川
11月15日	令和4年度重層的支援体制構築推進人材養成研修:基礎編②(Zoom)	吉川
令和5年 1月27日	令和4年度重層的支援体制構築推進人材養成研修:多機関協働事業者向け研修(Zoom)	吉川
2月17日	生活支援コーディネーター研修「大阪ええまちプロジェクト大交流会」(Zoom)	中口
2月2日	令和4年度重層的支援体制構築推進人材養成研修:アウトリーチ事業者向け研修(Zoom)	吉川
2月16日	成年後見制度と死後の手続き(Zoom)	安居
2月28日	令和4年度泉州地区生活困窮者自立支援制度研修会	吉川
3月9日	日常生活自立支援事業 担当者会議	安居

【えにしアカデミー】(動画配信によるオンライン学習)

日付	テーマ	参加
10月7日	福祉専門職に求められる価値観、人間力～ソーシャルワークの力～	大塚、植田、猪俣
10月21日	新・地域福祉と共生社会の展望	猪俣
12月9日	地域子育て支援の意義と必要性	濱中
令和5年 1月6日	ボランティア・市民活動論	坂上
1月13日	医療的ケア児を支える	渡辺
1月20日	地域福祉とソーシャルワーク	茂野、中口、猪俣
2月3日	コミュニティと共に実践する社会福祉施設	坂上、猪俣
2月10日	地域共生社会と福祉教育	渡辺、猪俣
2月24日	福祉経営②	熊抱
3月3日	地域住民、当事者の視点を大切にして地域に入る	大塚

職員会議（職場内研修）

日 程	名 称（主催）	参加者
5 月 25 日	市町村社協新任研修会 伝達研修 生活支援 G: 檜葉	全部署内から交代で出席
6 月 22 日	市町村社協新任研修会 伝達研修 地域包括 G: 渡辺	
7 月 27 日	社会福祉協議会の使命と事業内容の理解 猪俣次長	
9 月 28 日	テーマ学習 「認知症について」 地域包括 G: 北山	
10 月 26 日	業務ミニプレゼン 「わたしと仕事」 生活支援 G: 斎藤	
11 月 30 日	全体共有 「第4期地域福祉推進計画の骨子について」 猪俣次長	
12 月 21 日	テーマ学習 「障がい者理解」 地域福祉 G: 坂上主任	
令和 5 年 2 月 22 日	業務ミニプレゼン 「連携について考えよう」 地域包括 G: 尾崎	
3 月 22 日	1年の振り返りワーク 猪俣次長	

地域支え合い活動協力金事業（法人運営事業）

（１）事業概要

広く阪南市民に社協事業、地域福祉活動の理解を広め、協力金（会費）の拠出、会員への参加をもって地域福祉に参画していただく事業で、地域での福祉事業を進める際の貴重な財源となっています。なお、多くの住民・団体・事業者が会員として参加していることによって社協組織の公共性が保たれることになり、社協にとっては組織の性格上、最大限に重きを置く事業です。

○推進期間

令和４年６月１日～１１月３０日（※実施期間は通年）

○配分割合

実績の５割・・・校区（地区）福祉委員会

実績の５割・・・社会福祉協議会

（２）実施内容・実績

区 分	金 額	件 数	実績額
組織構成会員	6,000	73	438,000（昨年度：438,000）
個人 A	500	2,948	1,474,000（昨年度：1,377,000）
個人 B	1,000	667	667,000（昨年度：682,000）
個人 C	2,000	251	502,000（昨年度：484,000）
個人 D	5,000	16	80,000（昨年度：65,000）
個人 E	10,000	14	140,000（昨年度：100,000）
法人 A	5,000	31	155,000（昨年度：125,000）
法人 B	10,000	25	250,000（昨年度：240,000）
協力金	—	—	692,497（昨年度：693,617）
特別会員賛助 A	3,000	1	3,000（昨年度：—）
計			4,401,497（昨年度：4,204,717）

※「会員に関する規程」第４条３項１号と２号に掲げる会員からは会費を徴収していません。

（３）成果・評価

コロナ禍でしたが、校区（地区）福祉委員会や自治会、市民の協力を得て実施することができました。組織構成会員はご都合により２団体が退会されましたが、新規で２団体が入会されました。新たに市外の方の会員として特別会員を募集したところ、１名が会員になってくださいました。

（４）課題・今後の方針

いかに社協や福祉委員会活動について理解をいただき、協力をいただけるかが課題です。しっかりと日々の活動や事業のＰＲをする必要があります。

今年度は、組織構成会員に７６団体が構成員になっていただきましたが、今後は１００団体を目標に施設連絡会や市民活動団体等へ声掛けをしてまいります。

また、WEB等で社協や福祉委員会活動を積極的に紹介し、阪南市外からも会員になっていただく特別会員の周知を進めていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
4,401,497 円	会費収入	昭和 54 年度

広報紙発行及びホームページ維持管理事業（法人運営事業）

（１）事業概要

社協事業や校区福祉委員会活動、くらしに役立つ情報、また地域福祉活動の大きな担い手であるボランティア活動に関する情報を広報紙、ホームページにより発信した。

（２）実施内容・実績

業務	実績（内容）
社協広報紙「ふくしはんなん」の発行	年４回発行 （第 151 号、第 152 号、第 153 号、第 154 号） 部数 23,900 部（全戸配布）
ふくしはんなん編集会議の開催	発行ごとに 2 回 年 8 回
ホームページの管理運用	各ページ・ブログを随時更新 運営支援の業者による運用のための相談会を年 2 回実施

（３）成果・評価

- ・社協広報紙「ふくしはんなん」の内容を編集委員と共に検討することで、市民に見やすくわかりやすい広報紙を心掛け「見える社協づくり」を目指しました。
- ・「赤ちゃん写真」への応募が引き続き好評で、読者層の拡大につながることができました。
- ・前年度に引き続き、全 8 ページ、うち 4 ページを 2 色刷り、4 ページをカラー刷りし、より読みやすい紙面作りを目指しました。他市社協の広報担当者から制作についての問い合わせがくるなど注目を受ける紙面づくりができました。
- ・地域福祉活動をはじめ、図書館、子ども福祉委員、市民活動センター、ボランティアセンター、地域包括支援センターなどの記事を掲載することで、幅広い年齢層にも対応した情報を伝えることができています。
- ・ホームページ・ブログを活用し取組みの発信を行いました。
運営支援の業者による相談会を受け内容を見直すなど、さらに「見える社協づくり」に向けた内容の充実に取り組むことができました。
また、問い合わせフォームによる受付が可能になり、一部業務が軽減されました。

（４）課題・今後の方針

- ・幅広い世代に、より見やすく、よりわかりやすく社協事業を伝えるため、新たに構築したウェブページを大いに活用する。また身近な地域の情報を掲載し、地域密着の福祉意識が芽生えるきっかけづくりをしていく。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
1,916,512 円	経常経費補助金収入等	昭和 59 年 12 月

ボランティアセンター事業

(1) 事業概要

地域における多様な福祉問題に対応するため、ボランティアセンターの運営強化や若年層や地域活動者への福祉教育、新規活動者の開拓を目指します。

また、専門性のあるボランティア養成の場を活用し、必要に応じたボランティア活動を支援すると共に、校区（地区）福祉委員会等の地域に根ざした活動団体と NPO、市民活動団体等が力を合わせ協働できる地域福祉活動を展開します。

(2) 実施内容・実績

◇ボランティア登録者数 138 名

◇ボランティアグループ登録 39 グループ、特技ボランティア 7 名、サポーターボランティア 11 団体

◇ボランティア相談件数 48 件

◇ボランティアコーディネート件数 9 件

◇運営委員会の開催 3 回

◇ボランティアコーディネーター連絡会の開催 4 回 延べ 54 名参加

7 月 21 日（木）：コロナ禍での各校区（地区）の取り組みの工夫について

9 月 15 日（木）：地域活動での ICT 活用について

11 月 10 日（木）：防災ゲームで防災学習

1 月 19 日（木）：各校区（地区）で取り組まれている活動について

◇ボランティアグループ連絡会 参加団体：10 グループ

1 月 27 日（金）：・各グループで取り組まれている活動内容や活動中の悩みについて

◇夏休みボランティア DAY 実施期間：令和 4 年 7 月 28 日～8 月 27 日

※新型コロナウイルス感染拡大のため、夏休みボランティア DAY を中止の判断しました。

◇第 16 回ボランティア・市民活動フェスティバル 日時：3 月 11 日（土）9：30～15：00

参加：約 1100 人 協賛：企業・団体からの協賛金＜74 口：222,000 円＞

ボランティアフェスティバル実行委員会の開催 5 回 委員 18 名

◇カフェはなてい運営支援（尾崎公民館との協働事業）

実施期間：令和 4 年 5 月 20 日～令和 5 年 3 月 31 日

延べボランティア人数 173 名 延べ利用人数 947 名

(3) 成果・評価

- ・ボランティアセンター運営委員会では積極的な情報交換が行われコロナ禍での新たな取り組みや催しの内容、課題等を共有しました。気軽にできるボランティア参画として福祉農園で採れた野菜を使った寄附付き商品の開発を福祉農園事業と協働して行いました。
- ・ボランティアコーディネーター向けに防災ゲームを使った防災学習を実施しました。そこから広がりを見せ、波太地区や下荘地区、箱作地区などの各地区でも防災学習を実施しました。

(4) 課題・今後の方針

- ・子どもの居場所づくりを進めるボランティア同士の連携や、施設職員とボランティアの連携など、多様な主体同士の交流の場づくりを進めてまいります。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
348,141 円	研修参加費、印刷機手数料、プルタブ 収集、法人繰入金	昭和 58 年度

小地域ネットワーク推進事業

(1) 事業概要

阪南市より委託を受け事業実施しています。

孤立化を防ぎ、ともに支え合う活動として、住民交流、生きがい、健康づくり、見守りネットワークづくりなどの事業を、12校区の校区福祉委員会や各種団体の協働のもと実施しています。

(2) 実施内容・実績

①地区担当職員による福祉委員会支援

職員による地区担当制を取り、福祉委員会の組織運営や活動運営に参画し、運営への助言や関係機関との連絡調整、事務支援などを行いました。

(委員会) 概ね年1～6回程度×12校区 (役員会) 概ね年10回程度×12校区

(活動への参加) 随時参加し、専門的視点で活動のあり方、福祉課題等を把握する

②ワーカーの資質向上・情報共有

コミュニティワーカーとして、地域支援の技術向上や方法を学ぶため、オンライン研修会等に参加しました。

③校区(地区)12校区(地区)福祉委員会概況

校区(地区)名	委員数	ボランティア数	事務局拠点
東鳥取	68	0	東鳥取地区福祉委員会事務局
上 庄	49	0	上庄校区福祉委員会事務局
朝 日	22	12	なし
波 太	30	2	なし
山中溪	50	0	なし
尾 崎	47	3	阪南市地域交流館内
福 島	28	11	尾崎小学校旧保健室
西鳥取	87	3	なし
舞	78	31	あたごプラザ
下 庄	55	27	なし
箱 作	43	20	なし
桃の木台	28	20	なし
合 計	585	129	

(※ボランティア数は福祉委員との重複を除いた実数を集計)

④校区（地区）12 校区（地区）福祉委員会活動実績（介護予防活動除く）

地域の各種団体代表や趣旨賛同者等で構成される福祉委員やボランティアが中心となり、以下の活動を実施しました。

活動名	実施回数	延べ参加者数	延べボランティア数
いきいき健康教室	17 回	302 人	125 人
ミニデイサービス	0 回	0 人	0 人
ひとり暮らし高齢者食事会 (配食活動も含む)	28 回	1024 人	388 人
世代間交流	29 回	1123 人	297 人
子育てサロン	31 回	910 人	173 人
まちなかサロン (※)	139 回	1165 人	700 人
まちなかカフェ (※)	239 回	4712 人	1628 人
地域美化活動	42 回	759 人	624 人
個別訪問活動	614 回	2496 人	598 人
個別電話活動	759 回	1210 人	706 人
講座・勉強会	29 回	463 人	362 人
茶話会	125 回	917 人	740 人
その他	428 回	4564 人	2726 人
合 計	2480 回	19645 人	9067 人

(※) まちなかサロンカフェは福祉委員会が主催するもののみ。それ以外含む集計は以下に掲載。

⑤まちなかサロン・カフェの推進

i) まちなかサロンカフェの実施

職員が、新規サロンカフェ立ち上げ相談や運営支援・情報提供などを行っています。

【実施状況】

年度	校区（地区）数	開催か所数	開催回数	年間延べ参加者
令和 4 年度	11	40	810	15452

ii) まちなかサロン・カフェネットワーク連絡会の運営

まちなかサロン・カフェを運営する担い手に向けて、まちなかサロンカフェフォーラムの開催を周知しました。

・加盟団体 30 団体 (福祉委員会や自治会等)

iii) まちなかサロン・カフェフォーラムの開催

「多様な居場所作り」をテーマに、まちなかサロン・カフェ連絡会加盟団体や、地域での居場所づくりに興味がある住民、専門職に向けて、フォーラムを開催しました。あわせて、フォーラム内でネットワーク連絡会も実施しました。

日時：令和 5 年 1 月 16 日（月）14：00～16：00

参加：40 名（担い手・専門職等）

登壇者：目崎 智恵子氏（公益財団法人さわやか福祉財団 新地域支援事業担当リーダー）

岡 保正氏（箱の浦自治会まちづくり協議会 会長）

▶参加者アンケートより

- ・新しい出会いやつながりができて良かったです。
- ・人集めの大切さ。男性の参加が少ないので参加してもらいたい。
- ・各団体の悩みが分かり、自分たちにできることを活動していこうと思った。
- ・ほかの団体の幅広い活動（居場所・訪問支援・ボッチャなど）に関心させられた。
- ・居場所には出会いがあり、役割があることが分かった。
- ・資金集め、人集めが大切。

⑥活動者・関係者の情報交換や研修

i) 校区長・事務長・ボランティアコーディネーター会議の開催

年6回、12校区（地区）の委員長、事務長を参集し連絡会議の開催。課題の共有や情報提供などおこないました。（ボランティアコーディネーターは、初回のみ出席）

（3）成果・評価

約3年ぶりのまちなかサロン・カフェフォーラムを開催することができました。

「担い手同士の交流」「先駆的な実践活動より多様な居場所について知る・学ぶ」を今回の目標とし、企画や準備を進めました。当日のアンケートや第2部意見交換からも「活動者同士で話せてよかった」「新たなつながりができた」という声があり、ある一定の開催目標を達成することができました。

また、阪南市コロナフレイルゼロ運動にも位置付けることで、コロナ禍での居場所作りや工夫についても意見交換することができました。

改めて、平時に取り組まれている地域活動が住民にとって様々な機能を持った居場所になっていることを活動者へ意味付けする機会にもなりました。

（4）課題・今後の方針

まちなかサロン・カフェの推進においては、新型コロナウイルス感染症拡大を鑑みて、今年度ネットワーク連絡会を実施できなかった。フォーラム参加者の声にもあったように、「担い手同士の意見交換・交流」を積極的に企画していきます。

コロナ禍で活動の実施方法や実態が変更している居場所や新たに立ち上がった居場所もあるので、カフェ・サロン情報をわかりやすく整理していこうと考えています。

引き続き、身近な地域での居場所作り活動の充実のため、運営支援や立ち上げ支援を行います。また、既存の活動を大切にしながら、対象者や実施場所にとらわれない多様な居場所作り活動にも専門職と協働し、進めてまいります。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
23,703,000 円	・ 市小地域ネットワーク事業補助金 ・ 参加費収入	平成 10 年度

新しいつながりづくりコーディネーター配置事業

(1) 事業概要

長引くコロナ禍による高齢者のフレイルや子どもたちの孤立化の課題に対し、感染対策強化、新しい地域福祉活動の創出等を進めることを目的とした事業。

(2) 実施内容

【孤立しがちな独居高齢者・障がい者等への訪問等】

①泉南学寮グリーンサポーター

・出前授業4回 院内活動1回、地域活動9回

②子ども福祉委員の創設

4校区/40名 貝掛中：12名+（卒業生7人）、鳥取東中：2名+（卒業生17人）、
飯の峯中：26名+（卒業生34人）、下荘小：休止中

地域の高齢者訪問や地域活動の実施 5回（クリスマス訪問、高齢者との花壇づくり、困りごと支援活動等）

【「三密」を避けた形での交流活動の発展・創出】

①農福連携による地域活性化

・自然田での福祉農園の整備、野菜・果樹の植え付け、さつま芋掘り交流会の実施（59名参加）。
収穫した作物の寄付つき商品販売（23,701円）

②漁福連携・子どもの居場所の取り組み

・ぎょぎょこ食堂（子ども食堂）9回実施：761名参加
・波太キッチン（子ども食堂）12回実施：255名参加

③子どもの居場所プロジェクト

・地域ぐるみで子どもを支える支援（学習支援、食事支援等）

【既存の地域活動での感染対策支援】

地域に出向いた地域活動での感染対策支援 地域会議での支援・助言 89件

【ICTを活用した新しいつながりづくりの創出】

・ボランティアコーディネーターICT学習会の実施
・福祉委員会等でのYOUTUBE、LINE、インスタグラムの導入、活用

(3) 成果・評価

コロナ禍においても、屋外での活動を中止に「子ども福祉委員」活動、「泉南学寮グリーンサポーター」活動を実施しました。また、農作業と福祉の連携した活動に加えて漁業福祉連携をさらに進め、ウィズコロナ、アフターコロナの活動を創出してまいりました。地域では、YOUTUBEなどのICTを活用した福祉活動の展開が進みました。

(4) 課題・今後の方針

次年度は、生活支援体制整備事業に統合して実施する事業になります。地域共生の地域づくりの要となる事業として、若者も含めた多世代・多様な担い手・当事者の「参加」の視点をしっかりと継続し、進めていきたいと思っております。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
4,804,000円	市受託金	令和4年度

福祉農園事業

(1) 事業概要

社協が有する田畑で、高齢者や障がい者（児）、地域住民、支援者が農園での共同作業および社会参加を通じて、互いにやりがいや生きがいを高め、相互理解および親睦、健康増進を図る活動を展開します。

(2) 実施内容・実績

住民が主体となった農園運営

社協役員や地域住民が中心となって整地、苗植え活動を実施しました。

4月1日～3月31日

<苗>

じゃがいも、玉ねぎ、さつまいも、かぼちゃ、はっさく、きゅうり、トマト、オクラ、チンゲン菜、ほうれん草、ジャンボニンニク、里芋等

様々な世代の「参加の場」として野菜・果物の栽培

多世代のさつまいも掘り交流会

9月13日（火）59人参加

収穫した野菜・果物の「地域循環」

収穫した野菜等を、市内の子ども食堂への寄附。生活困窮者への食糧支援、寄附付き商品として販売しました。

- ・食料支援を子ども食堂へ6回実施
- ・生活困窮者への食糧支援を4月～1月まで実施
- ・寄附付き商品として野菜を168袋販売。寄付金額23,701円

(3) 成果・評価

- ・大阪府から助成金を活用し農園を活用したウィズコロナ、アフターコロナの活動を進めることができました。
- ・農園活動に様々な年代の方が参画・交流し、役割のある活動の場づくりを進めることで、外出自粛障がい者・高齢者の孤立防止や健康維持・介護予防の促進につながりました。また、活動に参加した個人や団体同士の新たな繋がりが生まれました。
- ・食料支援を受けられた方がボランティアとして農園活動に参加されることもあり、新たな繋がりが生まれています。また、野菜や果物を子ども食堂への寄付や寄附付き商品として販売することで、寄付文化の醸成につながりました。

(4) 課題・今後の方針

- ・重層的支援体制整備事業の「地域づくりに向けた支援」の一環として事業を継続的に進め、共生の地域づくりを今後も実践していきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
2,203,055 円	大阪府福祉基金 地域福祉振興助成金	令和2年度

アウトリーチ等機能強化事業

(1) 事業概要

生活困窮者自立支援制度の自立支援機関にアウトリーチ支援員を配置し、社会参加に向けてより丁寧な支援を必要とする方に対して、アウトリーチ等による積極的な情報把握により早期支援につなぐことや、支援につながった後の集中的な支援を行います。

本事業は、生活困窮者自立支援法に基づく事業の一環として実施するものであり、同法に基づく他の事業、とりわけ「自立相談支援事業」との連携は必須となります。

また、重層的支援体制整備移行準備事業における他機関の協働による包括的支援体制構築事業の内容を踏まえ、「くらし丸ごと相談室」と連携した事業を実施します。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 家族等から相談があったケースについて訪問し、本人に接触する等、初期のつながりを確保します。
- つながりが出来た後の関係機関への相談同行、就労支援といった、自立までの一貫した支援を実施します。
- 関係機関との連携、ネットワークづくり及び社会資源の開発等の地域のネットワークづくりを進めていきます。

【実績】

- 令和4年度新規相談件数：5件
 - ・年代：20代1名、30代0名、40代1名、50代1名、60代1名、不明1名
 - ・本人が抱える主な課題：社会的孤立、メンタルヘルス、コミュニケーションが苦手
 - 令和4年度継続支援件数：6件
 - 支援方法
 - ・訪問28回、来所面談8回、電話23回、メール60回、手紙5回、同行支援4回
- ※別紙参照

(3) 成果・評価

- ・メールを活用することで面談では話しづらい心の内を聞き取ることができました。
- ・1名、訪問を続けることで就労へのステップとして自立訓練作業所へ通所開始することができました。
- ・家族相談と本人への手紙から本人と面談することができました。

(4) 課題・今後の方針

- 対象者と面談できた際の関係作りが難しいと感じました。
家族からの聞き取りエピソードも会話のきっかけとなることを念頭におきながら訪問を継続していきます。
- 今後本事業は重層的支援体制整備事業の一環として実施していくことになるため、他の支援機関とも連携しながら本人に寄り添った支援をしていきます。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
4,311,016 円	市受託金	令和4年4月

日常生活自立支援事業

(1) 事業概要

認知症、知的障がい、精神障がいなどがあることで、自身での意思決定などに不安がある方ご本人と契約を行い、権利を護る相談に対応します。また、関係機関と連携を図り、できる限り本人の力で住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、在宅福祉サービスの利用や日常的な金銭管理、大切な通帳等の保管を中心とした支援を行います。

(2) 実施内容・実績

- ・制度についての問い合わせ 新規相談対応
- ・契約、支援計画変更、契約終了手続き
- ・支援計画に基づいた生活費等の金融機関での入出金
- ・訪問、来所による生活費等の手渡し
- ・家賃、光熱費等の支払・振込対応
- ・利用者さんからの相談対応 関係機関との連絡調整
- ・市役所等での手続き書類作成のお手伝い
- ・通帳や証書の預かりサービス
- ・成年後見制度へのつなぎ
- ・大阪後見支援センターへの定期的な契約内容の報告

契約者の利用内容	令和4年度	令和3年度
福祉サービスの利用援助	53	59
日常の金銭管理	49	55
通帳、証書類他書類の保管	22	17

相談・ 支援件数	令和4年度		令和3年度	
	相談等	支援	相談等	支援
認知症高齢者	555	376	692	520
知的障がい者	610	517	593	643
精神障がい者	845	429	714	421
その他	5	0	3	0
合計	2,015	1,322	2,002	1,584

契約締結・ 終了件数	令和4年度		令和3年度	
	締結	終了	締結	終了
認知症高齢者	2	7	4	7
知的障がい者	2	3	2	0
精神障がい者	0	0	2	1
その他	0	0	0	0
合計	4	10	8	8

(3) 成果・評価

- ・金銭管理や相談の対応を通じて、利用者が安心して生活を送るための支援を継続し行うことができました。
- ・利用者の状況に応じ、関係機関への引継ぎや親族への保管物品の返還を行いました。
- ・利用者の状況により、成年後見制度利用の案内や手続きの支援を行いました。

(4) 課題・今後の方針

- ・生活困窮者自立支援事業や市役所と連携し、利用者への支援内容の充実や支援が必要な方への事業のつなぎが必要です。
- ・前年度よりは待機者の人数が減ったものの、普段の窓口対応、電話・訪問対応、金融機関での入出金対応など業務量が多く新規相談への対応がすぐには進まないため、専門員・生活支援員の支援体制の充実が求められます。
- ・相談者から緊急性を求められる中、優先順位をつけて対応していく必要があります。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
9,432,490 円	市補助金、府社協受託金、利用料収入	平成12年度

生活困窮者自立支援事業

(1) 事業概要

阪南市では福祉事務所設置自治体が実施主体となって、官民協働による地域の支援体制を構築し、自立相談支援事業、住居確保給付金の支給、就労準備支援事業、一時生活支援事業、家計相談支援事業、その他生活困窮者の自立の促進に関し包括的な事業を実施します。

自立相談支援事業は、市及びその他の関係機関と密接な連携を確保し、生活困窮者の抱える複合的な課題を全体として受け止め、本人の置かれている状況や意思を十分に確認した上で、包括的な支援計画を策定し、それぞれの支援が開始した後も、それらの効果を評価・確認しながら、本人の自立までを継続的に支えていきます。

また、対象者を早期に把握するため、重層的支援体制整備事業に基づく包括的相談支援や地域づくりを、関係機関のネットワークづくりや、関係機関と連携を図りながら実施します。なお、業務実施にあたっては、就労準備支援事業、家計改善支援事業との三事業の一体的実施を行い、市が定める実施要綱及び生活困窮者自立支援法にかかる法令並びに通知に基づいた運営を行います。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 相談者の課題を把握し、支援計画を作成し、計画に基づいた支援を実施
- 市役所生活支援課、家計改善支援員との支援調整会議を週 1 回実施
- 市役所生活支援課との定例会議を月 1 回実施
- 市役所生活支援課、就労準備支援事業委託事業所との会議を月 1 回実施
- 関係機関との連携

【実績】

	新規相談件数	申込件数	住居確保給付金申請件数
令和 4 年度実績件数	505 件	105 件	17 件

(3) 成果・評価

- 令和 4 年 9 月で「新型コロナ特例貸付」が終了し、令和 4 年 12 月で「新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金」が終了した影響もあり、新規の相談・申込件数は減少しました。

しかし、困窮状態が続いている世帯も多く、継続的な支援が必要です。貸付相談から途切れることなく生活困窮者の把握を行うことができました。相談を受けることにより、必要な関係機関との連携を図り、支援ができました。

(4) 課題・今後の方針

- 新型コロナウイルス感染症の影響による新規相談が減少している中、新規相談の取りこぼしがないよう支援を行います。
- 特例貸付のフォローアップ支援、市役所生活支援課と連携しながら継続した相談支援を行います。

事業費総額 (円)	財 源	事業開始年度
15,069,034 円	市受託金	令和 2 年 4 月

福祉資金貸付事業

(1) 事業概要

「生活福祉資金貸付制度」は、低所得者や高齢者、障がい者の生活を経済的に支えるとともに、その在宅福祉及び社会参加の促進を図ることを目的とした貸付制度です。

この制度は、大阪府社会福祉協議会が実施主体となり、阪南市では本会が本市在住の住民を対象に窓口となって実施しています。

低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯等に対し、世帯単位でそれぞれの世帯の状況と必要に合わせた資金の貸付を行います。

また、本貸付制度では、資金の貸付による経済的な支援にあわせて、資金の種類によっては地域の民生委員が資金を借り受けた世帯の相談支援を行います。

生活困窮者自立支援制度の施行に伴って、総合支援資金と緊急小口資金の貸付にあたっては、生活困窮者自立支援制度の自立相談支援事業の利用を貸付の要件となり、連携が図られています。

(2) 実施内容・実績

- 貸付相談等の窓口対応
- 各種貸付制度のホームページ等での周知PR
- 生活困窮者自立支援機関等関係機関等と連携した支援体制の構築

【実績】

■ コロナウイルス感染症特例貸付申請等件数（令和4年9月30日まで）

対応内容	延べ相談	緊急小口申請	総合支援申請	延長貸付申請	再貸付申請
件数	529 件	49 件	55 件	0 件	2 件

■ 生活福祉資金等の申請件数

資金内容	福祉資金	緊急小口資金	総合支援資金	教育支援資金	不動産担保型生活資金
申請件数	4 件	17 件	0 件	4 件	0 件

(3) 成果・評価

- 令和2年3月からコロナウイルス感染症特例貸付が開始され、令和4年9月30日に終了しました。特例貸付を利用された後も生活に困窮されている旨の相談にも多く受けました。相談を受けた際には、生活困窮者自立支援機関や社会貢献事業を実施する社会福祉法人等の関係機関と連携した支援に努めました。

(4) 課題・今後の方針

- 今後、令和4年12月19日～令和17年3月31日までの13年間をかけて「特例貸付の借受人へのフォローアップ支援事業」が開始しました。阪南市内で借り受けされた817世帯に対し、状況確認や免除・猶予等の手続きの支援を行います。また、生活困窮者自立支援機関との連携を強め、自立に向けた支援を行います。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
8,376,465 円	府社協受託金	昭和 56 年 4 月

地域介護予防事業（市受託事業）

（１）事業概要

阪南市より委託を受け事業実施しています。

元気な高齢者を対象にした、生活機能の維持または向上を図るための事業です。介護予防の意識を高めるため、各校区（地区）福祉委員会等の協力を得て、身近な地域での体操教室や、サロンなどに出張して栄養教室を開催しています。

（２）実施内容・実績

新型コロナウイルスの感染拡大により、中止になる教室もありました。講師とも意見交換をし、感染予防対策を講じて介護予防事業を実施しました。

プログラム	委託先	実施回数・参加延べ人数	内容
こっこつゆうゆう体操	和歌山YMCA	40回・614人	筋力アップ体操
のびのび体操	谷川 直美 (市内福祉事業所)	82回・1,425人	リズム体操、頭の体操
出張栄養教室	はつらつ尾崎地域活動 栄養士会	5回・140人	食「栄養」についての 学習会の開催
お口の体操教室 ーにこにこ健口サロンー	府中病院（講話） ライフケア尾崎（演奏）	9回・115人	口腔機能の維持の講話 と季節の歌、レクリエーション
地域回想法教室	回想法グループ 「スイートピー」	6回・88人	折り紙、エコバッグ・ ブローチ作り、レクリエーション体操等

（３）成果・評価

○こっこつゆうゆう体操

継続して参加される方の中には、着実に運動機能の向上がみられています。元気な方のみではなく、体力低下を自覚している方にも効果のある体操になっており、専門の講師によるサポートがきめ細かく行われています。

○のびのび体操

参加者が多く、人気の教室となっています。頭の体操としてのなぞなぞや川柳の宿題が参加者の楽しみ、モチベーションアップにもつながっています。また、参加者が自宅でも継続して体操できるような工夫もされています。（なぞなぞの宿題など）

○出張栄養教室

日常の食生活に視点を置いた講話が楽しく理解しやすいという声が多数あり、身近な地域の行事へ出張することが、好評となっています。

○にこにこ健口サロン

コロナ禍で「歌」という特性から参加者数は少ないが、継続して参加される方には必要な教室となっていました。初回と最終回の言語聴覚士の講話や体操は、状況を見て対面での実施も可能となり、参加者からは好評でした。

○地域回想法教室

人数制限はあったが、昔懐かしい手作業をしながら楽しい雰囲気の中で語らう時間が参加者から好評でした。全市民向けと地域に出張型のどちらとも参加者からは「楽しい時間を過ごせた」という声が上がっています。

（４）課題・今後の方針

ウィズコロナの状況で、できることに目を向けて事業を進めてきました。フレイル予防・介護予防の重要性高くなっている中で高齢者にとっての「ふだんの暮らし」の状況が悪化することがないように、引き続き介護予防の重要性の周知を積極的に行っていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
3,187,720円	市受託金	平成21年度

民生委員児童委員協議会事務局事業

(1) 事業概要

民生委員児童委員協議会の事務全般（委嘱・表彰を除く）、会議の運営、委員の活動支援等。

(2) 実施内容・実績

月	日	会議	内容
4月	19日	役員会	令和3年度事業報告・決算報告について
4月	25日	総会	令和3年度事業報告・決算報告について
8月	24日	役員会	改選スケジュール、講演会について
9月	16日	総会・講演会	上野谷先生講演会
11月	14日	役員会	感謝状伝達式、委嘱状伝達式、総会について
11月	29日	感謝状伝達式	退任25名
12月	1日	委嘱状伝達式 総会	新規委嘱者27名、新役員について
1月	19日	役員会	新体制での運営について

【部会】

- ・広報部会定例会 毎月1回（10月を除く）
広報紙発行 9月、委嘱者名簿全戸配布 3月（市報4月号として）
- ・主任児童委員定例会 毎月1回
- ・地域福祉部会 保健センター離乳食講習会等の保育（原則月1回）

【地区委員会】

- ・4地区全てで地区研修実施。

(3) 成果・評価

阪南市生活支援課から事務局を引き継ぎ3年目となり、主体的な事務局運営をし、市との両輪で協議会運営を行いました。今年度は一斉改選があり、新規委嘱者への研修や地区割りの再確認を行いました。民生委員活動は地域活動とも密接に関わっており、社協が事務局業務をする意義を感じました。

(4) 課題・今後の方針

令和5年度は事業の委託形態が変わるため、改めて市担当課、事務局との役割分担のもと事務局の役割をしっかりと果たしていきます。新規委嘱者が不安なく活動できるようサポートしていきたいと思っています。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
— 円	—	令和2年度

老人クラブ連合会事務局事業

(1) 事業概要

「生きがいづくりと健康づくり」を目標に各種活動を総合的におこなっている老人クラブ連合会の事務局を受託し、その活動を支援するとともに、老人クラブの活性化や新規会員増加のため、広報の充実に努めます。

(2) 実施内容・実績

老人クラブ連合会事務局の運営

- ・地域交流館 1 階に事務局を設置（毎週火～木曜日）
 - ・総会、幹事会、定例会の調整
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定例会は中止

老人クラブの活動支援

- ・しにあ阪南発刊
 - ・グランドゴルフ大会
 - ・ねんりんウォークラリー
 - ・健康講座
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、演芸大会は中止

(3) 成果・評価

連合会役員との調整のうえ、事業を進めました。
老人クラブ関係者との関係性構築を進めることができました。

(4) 課題・今後の方針

老人クラブへの活動支援として、多様な主体との協働を進めてまいります。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
2,000,000 円	市受託金	令和 2 年度

生活サポート商品券交付事業

(1) 事業概要

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収入減少や失業等により日常生活に大きな影響を受け、一時的に生活困窮状態に陥っている市に居住する世帯に対し、期間及び使用が限定された商品券を配布し家計を応援するとともに、休業や活動自粛等により売上が減少している小売店、飲食店等の事業者を支援し、地域経済の再生及び活性化に資することを目的とした事業。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 新型コロナウイルス感染症特例貸付を令和3年12月1日以降、令和4年9月30日までに申請し決定を受けた世帯へ配布。
- 生活困窮者住居確保給付金を令和3年12月1日以降、令和4年9月30日までに申請し支給決定を受けた世帯へ配布。
- 阪南市商工会商品券1世帯あたり30,000円(500円×60枚)分を配布

【実績】

- 商品券対象世帯への発送：82件（うち2件が未受理）
- 商品券再発送：2件
- 未受理の2件へ訪問し、住所地に居住されているか確認を行いました。

(3) 成果・評価

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収入減や失業等により生活困窮状態に陥った世帯に対し商品券を配布することにより、家計を応援することができ、阪南市内の小売店や飲食店等への応援にもつながりました。また、新型コロナウイルス感染症特例貸付事業と、自立相談支援事業との連携を速やかに図ることができました。
- 商工会を通じて共通商品券取扱参加店に対して「換金依頼の案内」を配布し周知を行ったことで、換金率が94.3%になりました。(昨年度換金率：91.9%)

(4) 課題・今後の方針

- 商品券の発送業務を受託することでつながった世帯へ、今後も引き続き寄り添った相談を行ってまいります。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
2,789,916 円	市受託金	令和4年5月

生活支援・介護予防事業サービス協議体運営事業（市受託事業）

（１）事業概要

介護保険制度の改正に伴い配置された協議体の運営と第一層及び第二層生活支援コーディネーターを受託します。実施にあたっては、住民の主体性を尊重し、ニーズや資源の実態を把握して、協議のもと、地域に必要なサービスや住民相互の支え合い活動を創出するよう取り組みます。

（２）実施内容・実績

- ◆多様な団体同士が話し合う場（協議体）の運営
 - ・協議体 6 回、協議体事前会議 6 回
 - ・地域ニーズの共有や新たな社会資源の開発について議論する協議体や協議体運営会議では積極的な情報交換をおこないました。
- ◆協議体内にテーマを絞って話し合う部会を設置、運営
 - ・研修企画チーム会議 3 回
 - ・移動外出支援チーム会議 2 回
 - ・担当チームで協議を行うことで、より密に事業の実施をしていくことができました。
- ◆生活支援に関する相談・対応件数

第 1 層生活支援コーディネーター		第 2 層生活支援コーディネーター(東圏域)		第 2 層生活支援コーディネーター(西圏域)	
相談：286 件	対応：368 件	相談：142 件	対応：285 件	相談：149 件	対応：376 件

- ・地域活動をしている団体や支え合い活動に興味のある個人と地域の課題解決に向けた話し合う場を設け、ネットワークを構築し、社会資源の創出をおこないました。また、生活支援のニーズに対し、マッチングをおこないました。（泉南学寮グリーンサポーターによる生活支援 等）
- ◆担い手の養成、学習の場づくり
 - ・移動支援学習会を開催しました。参加者 20 名。
 - ・阪南市地域づくり担い手研修を 2 回開催しました。参加者 20 名。
- ◆ネットワーク構築
 - ・「第 3 層生活支援コーディネーター交流会」を実施しました。参加者 48 名。

（３）成果・評価

- ・地域住民の想いに寄り添い、丁寧に支援してきたことで住民主体の活動に広がりがみられます。活動の立ち上げ支援だけでなく、地域活動者の悩みや相談に乗り、活動を継続していくための支援（話し合う場づくり、ニーズの代弁等）もおこなっています。
- ・第 1 層協議体では多様な立場の人が地域の課題を共有できるよう運営をおこないました。1 年に 6 回協議体会議、さらに 6 回の協議体事前会議を開催しました。これだけの回数を協議していることは大阪府内でも珍しく、総合事業を推進していくため丁寧に地域づくりについて議論しています。
- ・阪南市地域づくり担い手研修では、互いに支え合う重要性や総合事業の施策、生活支援コーディネーターの活動について知ってもらうことができました。また、地域活動者同士や専門職との間で交流を促進するために、第 3 層生活支援コーディネーター交流会を開催しました。互いに直接コミュニケーションをとることで、コーディネーター同士や専門職同士の、新たな連携の機会を生み出しました。

（４）課題・今後の方針

- ・令和 5 年度は高齢者だけでなく、子ども、障がい者等の全ての市民が、地域・生きがいを共に創り、主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりを進めていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
17,232,720 円	市受託金、参加費収入	平成 28 年度

地域交流館管理運営事業

(1) 事業概要

阪南市より第3期指定管理（令和4年度～令和7年度）を受け事業実施しました。

阪南市地域交流館において、地域福祉活動、社会教育活動（尾崎公民館）、市民公益活動（市民活動センター）のそれぞれの活動を支援するとともに相互に連携を図るため拠点機能・調整役機能を最大限に発揮して業務を行います。

(2) 実施内容・実績

業務	実績（内容）
尾崎公民館、市民活動センター、社会福祉協議会による定例連絡会議の開催	月1回会議を実施することで、三団体が円滑に情報共有等することが出来ました。
掲示スペースの利用等による情報の発信	社会福祉、ボランティア、防災等に関する情報や、市民活動センター、尾崎公民館の情報を館内に掲示。また3施設の情報を一元化した「交流館だより」を年4回発行しました。
本会事業を通じた地域交流館のPR	① 誰もが参加できる居場所（共生型サロンやニュースポーツなど）の定期開催、認知症理解啓発および認知症支援事業でのPR ② 本会のホームページ・ブログや広報紙の紙面を利用したPR ③ 当事者団体の拠点支援によるPR ④ 本会がボランティアを調整し尾崎公民館と共催するカフェ事業におけるPR
貸館以外の施設利用を推進	駐車場横の広場の名称を公募し「であい広場」に決定。これまで以上にイベントやスポーツなどに有効活用してもらえるよう周知しました。
火曜日（休館日）の体育施設使用	地域交流館の休館日に体育施設を使用したいという市民の要望から、阪南市尾崎公民館と覚書を締結し使用を調整しました。 ※使用管理、使用料収入とも尾崎公民館 ・火曜日体育施設使用実績 令和4年9月～令和5年3月 48件 延べ589名
地域交流館の共用会議室および体育施設の使用許可に関する業務および利用料金徴収に関する業務	【貸館実績（のべ数）】 共用会議室①～④741件（前年比306%）12,522人利用 体育施設427件（前年比175%）13,465人利用 合計1,168件（前年度比220%）25,987人利用 ・5月23日より定員制限解除 収容率50%→100%

施設管理業務の適正かつ効率的な実施 (委託先) ① エレベーター点検、調整業務 ② 消防用設備等定期点検業務・防火対象物定期点検業務 ③ 電気工作物定期点検業務 ④ 簡易専用水道管理業務 ⑤ 自動扉保守点検業務 ⑥ 敷地内・施設内の案内・巡回業務	① 三菱電機ビルソリューションズ株式会社による毎月のリモート点検・年4回の作業点検 ② 有限会社阪南防災による消防用設備等定期点検年2回・防火対象物定期点検年1回 ③ 山根電気設備管理事務所(9月まで根無電気設備管理事務所)による毎月の点検と年1回の法定点検 ④ 株式会社ユニテックスによる年1回の点検 ⑤ 日本自動ドア株式会社による年4回の点検 ⑥ 公益社団法人シルバー人材センターからの派遣による施設管理・夜間管理・清掃業務
---	---

(3) 成果・評価

地域交流館管理運営事業の貸館実績において、共用会議室・体育施設の利用件数は、令和3年度はのべ1,053件、令和4年度はのべ1,168件、前年比110%と1割増加しました。

共用会議室・体育施設の利用料収入は、令和3年度は715,200円、令和4年度は749,600円、前年とほぼ増減はありませんでした。

令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止策における収容人数の制限が解除されましたが、体育施設の利用が多かった火曜日の休館が大きく影響し、またリモートの普及等で会議や研修の利用が回復しなかったことなどで、貸室利用による収益増加は見られませんでした。

ただ、年間の利用人数は25,987人と、収容率100%に戻ったこと、尾崎公民館まつりやボランティア・市民活動センターフェスティバル等イベントが再開されたことなどで、令和3年度11,800人に比べると倍増しています。

敷地内・施設内の案内・巡回業務に関しては、その一部の業務を公益社団法人シルバー人材センターへ委託し安全・安心の確保や事故防止に努めました。

館内の清掃業務に関しては、利用者が快適に施設を利用出来るよう清掃業務を行いました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に関しては、引き続き、「健康記録票」を用意し利用者の体調や連絡先を把握。また、手指消毒の奨励、職員による物品や設備の除菌も行いました。

施設利用者に向けて、パソコンやWi-Fi等の貸出用備品を市が導入しました。

また施設利用に関して、窓口には、複数の職員体制を整え、スムーズに対応しました。

(4) 課題・今後の方針

令和4年度からの第3期指定管理契約では、委託料が年額9,379,250円となり、第2期指定管理契約時の年額11,732,000円より2,352,750円減額しています。人件費・諸経費の増加、経年劣化による施設の修繕の増加等が続き、次年度以降も支出増加が予測されます。また、火曜日も休館日となったことで施設利用料収入が減少しました。休館日が増加した中で、利用料収入を確保し、できる限り支出を抑えていくよう努力する必要があります。

また、次年度より、ウェブによる施設利用の仮申請ができる「予約システム」を市が導入しました。このシステムをはじめ、昨年度より導入しているパソコンとWi-Fi等の貸出用備品を活用しあらたな利用者層を開拓していくことで、利用の促進を図ります。

多くの市民に親しまれる施設として、職員は、利用者対応・接遇などに必要な技術取得に努め、サービスの質の向上、利便性の向上を図ります。障がいのある方、高齢者も含め、すべての方が安心・安全、そして快適に利用できるよう、ハード・ソフト両面での顧客満足度向上をすすめます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
10,813,638 円	經常経費補助金収入 受託金収入 事業収入	平成 26 年 4 月 （第 1 期受託） 平成 29 年 4 月 （第 2 期受託） 令和 4 年 4 月 （第 3 期受託）

善意銀行事業

(1) 事業概要

善意銀行事業は、市民のみなさんからお預かりした善意のこもった寄付金や物品を、必要としている人や活動につなげることで地域福祉の増進を図る事業です。

お受けした寄付については、年4回発行の広報紙「ふくしはんなん」で報告しています。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 窓口での寄付金品の受け取り・指定先への払い出し
- 広報紙「ふくしはんなん」での実績の掲載 等
- 本会ホームページからのインターネット寄付の促進
- パンフレット作成・配布
- 遺贈による寄付拡充の推進

【実績】 延べ件数 123 件

- 寄付金

件 数：96 件（前年度：129 件） / 実 績：2,483,426 円（前年度：1,771,303 円）

（内 訳）

指定寄付先	件 数	実 績
校区（地区）福祉委員会	78 件	1,062,600 円
その他の団体	4 件	29,482 円
本会	14 件	1,391,344 円

- 物品等

件 数：27 件（前年度：15 件） / 実 績：589,783 円相当額

- ・介護用品（紙パンツ等 10 袋、おしりふき 3 個、衛生用品、手袋 2 箱、薬用消毒剤 5 箱）
- ・食品（大根 50 kg、グリーンリーフ 35 kg、米 440 kg、レトルトご飯、餅、カップ麺、菓子、粉ミルク）
- ・衣類（スーツ 4 着、肌着、スニーカー 1 足）
- ・その他（鉄板スロープ、花苗、囲碁盤、カーペット、ソファ、ロッカー、洗濯機、クリスマスイルミネーション、アニメグッズ）

（内 訳）

指定寄付先	件 数
校区（地区）福祉委員会	0 件
その他の団体	2 件
本会	25 件

(3) 成果・評価

- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う生活困窮者等への支援として衛生用品や食品等の物品寄付を数多く受けました。
- 広報紙「ふくしはんなん」での掲載により、物品の寄付につながりました。
- インターネットからの寄付は、3 件 32,698 円でした。
- パンフレットを 1,000 部作成し、本会理事会・評議員会、福祉委員会や地域包括支援センター窓口等で 760 部配布しました。
- パンフレットやホームページで遺贈による寄付拡充の推進を図りました。

(4) 課題・今後の方針

- パンフレットやホームページを活用し、粗供養による寄付だけでなく遺贈・相続財産等による寄付受付を推進します。
- 福祉委員会活動や子ども福祉委員活動支援等の地域福祉の推進や、生活困窮者等の支援へとつながるよう寄付の拡充に努めます。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
3,182,469 円	寄附金収入・事業収入	昭和 56 年 4 月

赤い羽根共同募金運動（一般募金）（共同募金協力事業）

（１）事業概要

社会福祉法では、地域福祉推進に係わる規定が設けられ、その中に位置づけられた共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に向け、民間団体を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」として取り組まれています。

本会は阪南地区募金会として、阪南市内での本運動の推進に取り組んでいます。

（２）実施内容・実績

【実施事業の内容】

10月1日から12月31日までの3か月間、校区（地区）福祉委員会や自治会、学校・幼稚園等各種団体および企業のご協力を得て取り組みました。

本会（阪南地区募金会）が取り組んだ募金の種別は、主に以下のとおりです。

○戸別募金

自治会等の協力を得て、地域の各家庭へ募金を呼びかけました。

○街頭募金

新型コロナウイルス感染症予防に努め、社協役員、一般募金配分団体、12校区・地区福祉委員会、ボランティアセンター運営委員会の協力のもと商業施設にて募金を呼びかけました。

○法人募金

福祉委員会の協力を得て、企業等に寄付を依頼しました。

○職域募金

社協内部と阪南市役所にて募金を依頼しました。

○学校募金

学校・幼稚園において生徒・児童に募金を呼びかけました。

○バッジ募金

公募されたデザインのバッジを1個500円で頒布しました。

【諸会議及び研修】

○9月の三役会にて協力依頼、校区(地区)長・事務長会議にて今年度の実施方法をお伝えしました。

(内訳)

【実績】

令和4年度募金実績合計額 2,771,552 円

(参考)

令和3年度募金実績合計額 2,805,265 円

種 別	金 額
戸別募金	1,798,804 円
法人募金	354,000 円
学校募金	93,030 円
職域募金	19,862 円
街頭募金	67,771 円
バッジ募金	302,500 円
その他	135,585 円

（３）成果・評価

○感染症予防を行いながら例年同様の規模ではないものの、街頭募金は昨年より多くの方々に呼びかけのご協力を頂き、募金金額も大幅に増えました。また、学校募金、職域募金、バッジ募金、その他（やさしさ募金）においても昨年度以上にご協力いただきました。

（４）課題・今後の方針

○実績額の減額にあたり、募金の適切な配分や感染症予防に努めた募金方法について検討していく必要があります。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
2,141,566 円	経常経費補助金収入	

歳末たすけあい運動（共同募金協力事業）

（１）事業概要

社会福祉法では、地域福祉推進に係わる規定が設けられ、その中に位置づけられた共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に向け、民間団体を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」として取り組まれています。

本会は阪南地区募金会として、阪南市内での本運動の推進に取り組んでいます。

（２）実施内容・実績

【実施事業の内容】

12月の歳末期に、配分申請団体、社協役員の協力を得て、街頭募金に取り組みました。

○街頭募金

新型コロナウイルス感染症予防に努め、配分団体より3～4名、会長・副会長の協力のもと商業施設にて募金を呼びかけました。

【諸会議及び研修】

○11月の三役会にて協力依頼、1月の三役会、校区(地区)長・事務長会議にて今年度の実施方法をお伝えしました。

【実績】

○令和4年度募金実績

区 分	金 額	(参考) 昨年度金額
前年度繰越額	10,166 円	33,813 円
当該年度実績額	119,111 円	56,353 円
計	129,277 円	90,166 円

【配分】

○6団体6活動 配分額計 60,000 円

【翌年度繰越額】

○35,426 円（＝募金実績額計－配分額計）

（３）成果・評価

○平成26年度より取り組みはじめ、今年度も子どもたちの年末イベント、地域での世代間交流等のさまざまな活動に活用しました。残額 35,426 円は全額を大阪府共同募金会に送金し、次年度歳末たすけあい運動で集まった募金額と合わせて、次年度の配分金として活用します。

○街頭募金の実施にあたり、今年度も4店舗の商業施設に協力を依頼し、募金活動を実施しました。

（４）課題・今後の方針

○例年申請団体の活動へ配分を行っているが、生活困窮状態や引きこもり、虐待、権利侵害等今日的な地域の生活課題を抱えた方々への支援活動の取り組みが行えていないため、今後の活動の在り方を検討していきます。

阪南市地域交流センター「ふれ愛ホーム」事業

(1) 事業概要

「ふれ愛ホーム」は本会定款で基本財産として定められており、本会が社会福祉事業を実施するための大切な拠点となっています。

一方で、時代に応じその役割を変えてきており、阪南市地域交流館の市からの指定管理に伴う本会の事務局機能及び地域福祉活動やボランティア活動の支援拠点の移転により、従来の貸部屋を通したそれら活動の支援の役割は一旦終わりました。

その後は、阪南市を中心とした子育て支援を行なう特定非営利活動法人「子どもNPOはらっぱ」に施設の一部を貸出すことで地域福祉推進に寄与しています。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 施設の一部を貸し出し、特定非営利活動法人「子どもNPOはらっぱ」が取り組む子育て支援活動等への支援を図りました。

【実績】

- 子育て支援団体活動拠点の提供を行いました。
- 隣接土地への影響や施設の環境整備への配慮から植木の一部剪定を実施しました。

(3) 成果・評価

- 本会の基本財産を子育て支援の拠点として活用しました。
※ 地域の親子、子どもの居場所事業、18歳までの子どもからの相談受付事業などを定期的に開催。
- 植木の一部剪定により環境が整備されました。

(4) 課題・今後の方針

- 阪南市内で取り組まれているボランティア活動団体の拠点として本施設を活用することができないか、あらためて検討を図ります。
- 施設の設備に老朽化している部分があり、今後修繕の費用が必要になってくると見込まれます。
- 貸部屋利用促進のため、本会ホームページに貸部屋案内を掲載します。
- 植木の剪定を引き続き実施します。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
624,000 円	事業収入	平成 15 年 7 月

阪南市介護者(家族)の会支援事業（当事者組織支援事業）

（１）事業概要

介護に関して、同じ状況にある人同士が集まり、悩みの共有や課題解決に向けた学習等、情報発信をする当事者組織の組織化や運営支援を行う。

（２）実施内容・実績

- ・つどい（4.6.7.9.11.12.1.2.3 月に開催）
- ・総会（5月に開催）
- ・介護者だより発行3回
- ・役員会
- ・泉州ブロック介護者（家族）の会活動
- ・バスツアー（和歌山県かつらぎ町 八風の湯）
- ・施設見学（サービス付き高齢者住宅「ふくはちの家」）
- ・街頭募金（10.12月）
- ・介護勉強会（インテックス大阪へ）
- ・キャラバンメイト活動（認知症サポーター養成講座）

（３）成果・評価

- ・上記事業を通して、介護者の心のよりどころとなり精神面で支えることができました。
- ・今年度は幹事として泉州ブロック会議の開催を行い、他市町村の介護者（家族）の会とのつながりができ、積極的な情報交換を行うことができました。
- ・つどいでは、マスクを着用し換気、消毒を行うなど感染症予防に努めました。また、地域包括支援センターの職員や医療ソーシャルワーカーが参加され、専門的な視点での助言をもらい、つながりも構築できました。
- ・認知症カフェ「ぬくぬく」の運営を再開し、当事者や家族、支援者たちが交流することができました。
- ・マスターズカフェの運営支援や介護相談を出張開催することで、相談が増えました。

（４）課題・今後の方針

- ・「介護の悩みを持つ当事者同士が情報を共有し、励まし、助け合い解決していくこと」を意識して取り組む。
- ・送迎がないとつどいなどに出席できない高齢の会員が増えているため、活動へ参加できる方法を検討していく必要がある。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
50,000 円	赤い羽根共同募金配分金	昭和 62 年度

総合相談支援業務（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

身近な圏域でのワンストップの総合相談窓口として、社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員、認知症地域支援推進員等の専門性を活かし、高齢者を中心とした全ての住民の相談支援および訪問相談業務を行ない、課題把握をします。その際、本会の特性と実績を活かし、様々な地域でのインフォーマル資源や多様な関係機関とのつながりを意識した対応を行ないます。

圏域内には、５つの校区（地区）でまちなかサロン・カフェや小地域ネットワーク活動が実施されています。できるだけ身近な場所で高齢者の困りごとを把握できるよう、これらのサロン・カフェ等と連携し、職員による出張相談を実施します。出張相談では、直接困りごとの相談を受けるとともに、校区（地区）福祉委員や民生委員等が把握している高齢者に関する情報もあわせてキャッチします。

（２）実施内容・実績

○相談件数…４，４７６件

（３）成果・評価

○昨年度と比べて約１，０００件ほど相談対応が増えています。

○相談経路は本人、家族、ケアマネジャーの順に多くなっています。

○コロナ禍で閉じこもり気味となったことで筋力低下が進み、転倒が原因での医療機関からの相談が増加している傾向にあります。

○精神疾患や認知症、家族間・近隣トラブル、財産管理に付随する成年後見制度に関する相談が増加しています。家族や他の専門機関、地域の活動者とともに対応を行なうことを心がけました。

（４）課題・今後の方針

○家族が同居する世帯が困難事例化することが多数ありました。家族自身が社会的に孤立、生活困窮に陥っていたりと家族力の低下が顕著で、家族介護について考える取り組みが必要です。

また、家族や制度のみが介護を担うのではなく、地域全体で支える地域づくりも求められています。

○精神疾患や認知症の進行により生活が不安定となる事例が多数ありました。家族、地域、医療や介護の専門機関、その他民間事業者も含め、気軽に誰かに助けを求めることができる、元気なときから様々な方とつながりあって過ごしていける地域づくりを進めていきます。

権利擁護事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

高齢者の人権を護るため、相談や通報に対し市役所や関係機関と連携し、対応します。また、高齢者虐待、消費者被害の早期発見や予防を図るため、対処法や制度についての啓発活動を行ないます。

（２）実施内容・実績

【相談実績】（延べ件数）

相談内容内訳	相談件数
権利擁護	11
成年後見等	65
虐待関係	64
消費者被害等	7
財産・経済問題	98
合計	245

【会議・研修】

○地域包括支援センター職員向け 法律相談 対面 計2回 その他、電話やメール対応複数回

（３）成果・評価

- 成年後見制度、財産管理や経済的な問題についての相談が前年度比約2倍～3倍に増加しています。
- 行政等関係機関とともに弁護士を講師に成年後見制度の学習会を開催しました。結果、行政とともに今後の成年後見制度のあり方について協議するきっかけづくりを行なうことにつながりました。
- 認知症高齢者等が警察によって保護される事例が多く、よりスムーズな対応につなげるため警察との意見交換の場をもちました。

（４）課題・今後の方針

- 地域性のひとつとして戸建て住まいが多いこともあり、死後の財産についての相談が増えています。
- 弁護士や銀行等との連携により、地域内での終活を意識した学習会の開催を検討します。

包括的・継続的ケアマネジメント事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

地域のケアマネジャーが包括的、継続的なケアマネジメントを実施できるよう、地域のネットワークを構築するとともにケアマネジャーへの支援を行ないます。

（２）実施内容・実績

プログラム	実施回数	実績
ケアマネジャーへの支援・助言・相談	随時	延べ１１０１件（内訳） ●利用者支援相談１８２件 ●実務相談３２１件 ●給付算定関係３０７件 ●個別地域ケア会議２件 ●個別事例検討会３件 ●その他２８６件
ケアマネジャー部会	６回（会場開催）	延べ１３０名出席（コロナ感染予防のため人数制限あり）
ケアマネジャー役員会	６回（会場開催）	延べ７０名出席（役員９名）
Mina de jirei α	１１回（うち１回は研修会。助言者、事例提供者として参加）	西包括から１事例提供
Mina de study	３回（会場開催２回、オンライン開催１回）※うち２回は大阪府介護支援専門員協会泉州南支部と共催	１２４名出席
６市町ケアマネジャー合同連絡会	１回（オンライン開催）	

（３）成果・評価

- 情報共有ツールとして、「MCS」（メディカルケアステーション）の活用が定着しています。
- ケアプラン請求業務に IT の活用が導入された結果、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターの業務が簡素化され、大幅な負担軽減につながりました。
- ケアマネジャーが主体的に部会に関われることを目的に、阪南市の居宅介護支援事業所を５グループに分け、グループごとに学びたいテーマを決定し、当日の司会、進行を行ないました。
- 前年度、介護保険課により介護保険サービス新規利用者の手続きについて、ケアマネジャーの負担軽減を目的に業務改善が行なわれましたが、その内容が現場業務に混乱をきたすことになりました。ケアマネジャー部会にて課題の精査を行ない、介護保険課に内容の再検討を依頼した結果、大幅な負担軽減を盛り込んだ新たな業務改善案が出され、令和４年１２月より実施されることになりました。地域のケアマネジャーが一丸となり、主体的に取り組んだ結果、大きな成果につながったと考えます。
- 自立支援型地域ケア会議の助言者として主任ケアマネジャーが参加していますが、他の専門職と合同で検討する中で、課題を幅広くとらえ社会資源を知ることができ、支援の幅が広がり、質の向上にもつながっています。
- 介護保険制度の改正で委託連携加算が創設されましたが、介護予防プラン作成に係る手間は介護プランと同様であり、加算だけでは事業所運営の採算ベースにのらないこと、また市町村によって提出の手順や書類が異なり業務が繁雑であることから、委託の推奨にはつながっていません。
- コロナ禍ではありましたが、地域包括支援センターの主催、大阪府介護支援専門員協会（泉州南支部）との共催で、法定外研修（主任ケアマネジャー更新研修の要件）を３回開催することができました。

○ケアマネジャーの業務負担軽減につながるよう、提出書類の見直し（改訂版）に取り組みました。

（４）課題・今後の方針

- ＩＴの導入によってオンライン化が進んだこと、コロナ禍で対面で顔を合わせる機会が激減したことで、ケアマネジャーの孤立化が課題となっていますが、今後は参加人数の制限も解除するため、徐々に以前のような形に戻ると考えます。
- 介護認定の結果遅延が恒常化しており、暫定サービス利用における弊害（必要時に必要な支援を受けられない、利用料の請求ができず事業所への報酬が遅れる等）が続いています。暫定サービス利用に伴うリスクの説明に時間を要する等、ケアマネジャー業務にも支障をきたしています。
- ケアマネジャーの高齢化、退職、新たななり手がいないことから慢性的な人材不足の状態が続いています。そのため介護予防プランの委託先が見つからず、地域包括支援センターの負担が増大しています。
- 介護人材の不足については当センター、地域の事業所だけの問題ではなく、日本全体の社会的な問題となっており、国レベルで介護人材の養成を行なう取り組みも進められています。阪南市の今後のためにも、市の責務として介護・福祉職の人材養成に力を入れる取り組みが必要であると考えています。
- 6 市町ケアマネジャー連絡会が当初の目的（医療と介護連携）が一定達成されたことから、今後の存続について各市町の意見を集約することになりました。その結果、阪南市のケアマネジャー部会が必要との声をあげましたが、多数決の結果「解散」となりました。今後、阪南市以外の広域を対象にどのように地域課題や情報の共有、課題解決を行なっていくのかが課題と考えます。

地域ケア会議推進事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

圏域内での医療、介護、福祉等の専門職と、校区（地区）福祉委員会や民生委員、ボランティア等の住民活動者が連携協働し、高齢者の地域での生活を支えるため、個別、地区、市域等で地域ケア会議を開催します。＊阪南市では地域ケア会議を「支えあい会議」という名称で進めています。

（２）実施内容・実績

プログラム	実施回数	実績
個別支えあい会議	１５回	認知症高齢者とひきこもり家族の同居世帯への支援体制、近隣トラブル、要介護者と住民の支えあい活動、生活困窮者に対する支援体制、認知症高齢者と家族、地域住民との見守り体制など
エリア会議（圏域内５校区）	３０回	各校区の状況や課題の共有
三職種会議（主任ケアマネジャー、医療職、社会福祉士）	３６回	東西地域包括支援センターの職種ごとにあつまり、課題の共有、資源開発等
地域支えあい会議（圏域５校区内の福祉委員会や民生委員児童委員が集まる会議体に参加等）	５３回	認知症、フレイル、障がい、ひきこもり、８０５０問題、孤立死、ヤングケアラーなど、様々な地域課題を住民と共有

（３）成果・評価

- 三職種会議を通じて、ケアマネジャーの業務改善や権利擁護に関する警察や消費者センターとの連携、健康づくりにおける他分野協働など、地域課題を各種取り組みとつなげながら活動することができました。
- 地域の活動者の方々とともにヤングケアラーについての学習会を行なうことができました。
- 子どもと認知症高齢者、学校と漁港など、地域内で他分野同士が連携し、地域づくりを行なうことができました。
- 昨年度の方針として地域へ出向くこと自体を支えあい会議に位置づけ、地域の活動者とともに地域課題について考える機会を設けることができました。

（４）課題・今後の方針

- 制度内、行政施策、地域住民と一緒に検討など、それぞれの強みを活かしながら、地域課題の解決に向けた話し合いを継続します。

介護予防・生活支援サービスの体制整備事業への参画・協力（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

本会に配置された第１層、第２層生活支援コーディネーターと連携し、総合事業や生活支援サービスのあり方、住民主体による支援について検討するため、「阪南市生活支援・介護予防サービス協議会」の運営に積極的に参画・協力します。

（２）実施内容・実績

プログラム	参画回数	実績
第１層阪南市生活支援・介護予防サービス協議会への参画	５回	地域における支えあい活動の共有
第２層阪南市生活支援・介護予防サービス協議会への協力	１５回	舞シニアサポート、箱の浦まちづくり協議会など総合事業を実施する地域団体への参画

（３）成果・評価

- 阪南市地域づくり担い手研修の講師役を担いました。
- 積極的に住民主体型サービスを担う地域団体の会合に参画しました。

（４）課題・今後の方針

- 住民主体型サービスにつなぐ専門職のケアマネジメントが求められています。生活支援 Co を中心に住民と専門職が集う場づくりを行っていますので、引き続き同様の場づくりに協力していきます。

在宅医療・介護連携の推進事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

医療職及び介護職の「顔の見える関係」を築くため「医療と介護の多職種連携会議」へ参画し、医療と介護の円滑な支援体制を構築します。

（２）実施内容・実績

【阪南市医療と介護の多職種連携会議（はなていネット）、泉佐野泉南医師会との協働事業】

プログラム	参画回数	実績
運営会議	2回	コロナ禍での各活動の共有、フレイル対策の必要性の投げかけ
連携会議	1回	地域包括ケアに関する研修
戦略会議	1 2回	泉佐野泉南医師会、市、東西包括による医介連携推進会議
施設部会	2回	コロナ禍における施設対応、施設看取りについて
病院部会	2回	コロナ禍における病院対応、身寄りのない方への支援について
訪問看護部会	1回	コロナ禍における在宅支援について
通所部会	2回	コロナ禍における対応
訪問介護部会	1 1回	研修会など
3市3町多職種連携会議	1回	ACPの方向性の共有など
市内診療所、クリニック訪問	9回	泉佐野泉南医師会、阪南市介護保険課協働事業

（３）成果・評価

- コロナ禍における対応について各施設や事業所同士、円滑に意見交換ができるよう調整しました。
- コロナフレイル対策として、コロナフレイル0運動への参画を促し、多数の専門職の地域派遣が実現できました。

（４）課題・今後の方針

- コロナの影響で停滞していた地域活動が、各専門職の地域への参画も後押しとなり、全地域において再開しています。
- 引き続き専門職と一緒に地域へ出向き、住民と専門職協働による地域包括ケアを推進します。

介護予防事業普及啓発活動への協力（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

高齢者ができるだけ自立し、住み慣れた地域で生活できるように、介護予防について普及啓発していきます。コロナ禍が続く外出や人との交流が制限される中、フレイル状態に陥る方をなるべく増やさないよう、コロナフレイルの周知を徹底し、コロナフレイル０運動を継続します。

高齢者が歩いて通える身近なところに、介護予防教室を開催できるように、いきいき百歳体操の普及啓発に努めます。

（２）実施内容・実績

プログラム	実施回数	実績
いきいき百歳体操	４回	住民主体の通いの場を支援し介護予防を図る 立上げ支援なし
出前講座	４回	介護予防、認知症予防のための意識付け
医療職会議	１２回	医療との連携、介護予防の内容について
コロナフレイルゼロ運動	９回	コロナフレイルを広く周知し、フレイル予防に努める 会議２回 専門職による出前講座９回
あざみ会	１７回	パーキンソン病患者・家族会１０回 役員会７回

（３）成果・評価

○いきいき百歳体操は、コロナ禍で休止していた各グループの再開状況に合わせて体力測定を行なうなど、コロナ禍の影響を確認しました。

○コロナフレイルゼロ運動の啓発チラシを作成しました。各テーマを提示してわかりやすく地域に投げかけを行ない、コロナフレイルについて市民に周知できるように働きかけました。

○コロナフレイルゼロ運動の一環として、はなていネットの各部会の専門職が地域に出向き、フレイル状態の早期発見の大切さや、各テーマに基づいた対応方法などの出前講座を行ないました。

○あざみ会では、新規会員の確保に努め、新しいチラシの作成や、専門職による講演会を開催しました。

またコロナ感染症の感染状況を踏まえた上で、開催できる方法を事務局として提案し継続開催できるように努めました。

（４）課題・今後の方針

○身近な場所で介護予防に取り組めるように、いきいき百歳体操の積極的な PR を行ない、普及啓発に努めます。定期的な体力測定が継続できるように、各機関と協力して実施します。

○コロナフレイルゼロ運動について、各地域で幅広く周知できるよう、地域の方々及び各種専門職と共動し、開催について検討を重ねていきます。

○あざみ会では、当事者と家族が、自身の病気や介護の悩みを表現でき、不安の解消につながるような場づくりを提案していきます。また新規会員の入会につなげるため、幅広い PR 活動に力を入れます。

任意事業：介護用品支給事業、住宅改修支援事業、介護相談員派遣事業（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

介護用品支給事業、住宅改修支援事業、介護相談員派遣事業に協力し、高齢者やその家族の経済的、精神的な負担軽減や介護サービス事業所のサービス力の質の向上をめざします。

（２）実施内容・実績

【介護用品支給事業】：要介護３～５の高齢者に対し、申請代行等を行ないます。

○計４件

【住宅改修支援事業】：住宅改修に関する助言や住宅改修理由書の作成に協力します。

○計１１件

【介護相談員派遣事業】：意見交換会への参加等を行ないます。

○コロナの影響で中止

（３）成果・評価

【介護用品支給事業】

○件数は横ばいで推移しています。

【住宅改修支援事業】

○引き続き申請支援をおこなっていきます。

【介護相談員派遣事業】

○コロナの影響で中止

（４）課題・今後の方針

【介護用品支給事業】

○市と協力し、ケアマネジャー及び地域住民への周知を行ないます。

【住宅改修支援事業】

○住宅改修を行なう理由を聞き取り、訪問の中で直接確認し、必要性に応じた支援を行ないます。

認知症施策の推進（市受託：包括的支援事業）

（１）事業概要

認知症地域支援推進を配置し、認知症当事者や家族などが尊厳を保ちながら、その人らしく穏やかに生活を送ることができるよう、認知症施策や事業の企画、調整などコーディネートし、認知症の人が地域で暮らし続けるために、地域の支援者や支援機関とのつながりづくりを行っていきます。

（２）実施内容・実績

プログラム		実績
普及啓発・本人発信支援	認知症サポーター養成講座	コロナ禍により開催先を制限して実施
	地域別キャラバン・メイト連絡会	公民館や住民センターなどで実施
	キャラバン・メイトリーダー会議	各地域別の活動を共有、今後の活動の提案等
	認知症支援マップの周知	市内の各商店、事業所、機関への配布
	こども、障がい分野との連携	活動の協働、協力
	普及啓発イベントの企画	実行委員会を設置、高齢者イベントを実施
当事者・活動者支援	卓球クラブ中田会の活動支援	地域交流館や学校施設で活動
	おにぎり会の米作り活動支援	田植え、稲刈り、おにぎりカフェの開催
	ぬくぬくカフェ活動支援	再開に向けた会議への参加
	認知症、フレイル予防活動	当事者の居場所づくり、健康づくり、歩く文化づくりへ向けた活動の実施
	マスターズC a f eの活動支援	認知症当事者、支援者、家族の相談支援
	チームオレンジの構築	継続支援
集中支援チーム	認知症初期集中支援チーム員会議	包括内にて開催
	認知症初期集中チーム員支援会議	認知症サポート医とともに事例検討
	認知症初期集中支援チーム検討会	他市との交流等を開催
医療・介護の連携構築	認知症ネットワーク部会	認知症活動における課題等を共有
	3市3町認知症対応ネットワーク会議	泉佐野泉南医師会と協働
	大阪府内認知症連携関係者連絡会	府下の認知症支援情報の共有、会議への参加
	6市町認知症地域支援推進員連絡会	他市の認知症地域支援推進員と協働
	認知症疾患医療連携協議会	病院主催の会議、研修への参加

認知症地域支援推進員活動状況（個別支援）

相談内容内訳	相談件数
利用者からの相談	80
家族からの相談	105
関係機関等からの相談	18
関係機関との連携体制構築等	24
認知症初期集中支援チームとの連携	15

認知症地域支援推進員活動状況（団体支援）

	延件数	参加人数等
西圏域	136	3521

（３）成果・評価

○認知症の普及啓発だけでなく地域共生を目指した活動の実行委員会（オレンジプロジェクト）を立ち上げ、高齢者理解を進めるための子ども向けのイベントを開催しました。

○認知症カフェの特色を把握し、それぞれの活動に合わせた後方支援を行ないました。

(4) 課題・今後の方針

○引き続き認知症当事者がやり甲斐や役割を持った生活を送ることができるよう、また人と人とのつながりが途切れることのないように認知症にやさしいまちづくりの取り組みを進めていきます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
38,207,155 円	市委託料収入	2016年度

介護予防サービス計画の作成（指定介護予防支援事業）

（１）事業概要

加齢や疾病によって“生活の一部に支援が必要な状態”や、“介護保険サービスを適切に利用することで心身機能の改善が見込まれる可能性がある”として、要支援 1、要支援 2、事業対象者に認定された方々の自立支援を目指し、本人のやる気を引き出せるように介護保険サービスや地域住民、ボランティアやインフォーマルサービスを組み込んだ計画を本人、家族、関係機関と調整しながら作成します。

（２）実施内容・実績

【ケアプラン作成件数】

○総ケアプラン数 合計 4, 3 1 0 件
（包括作成数 9 6 1 件 委託数 3, 3 4 9 件）

（３）成果・評価

○介護の相談があった方、全員に対して介護保険を進めるのではなく、本人に合った多様な社会資源も含めたケアマネジメントを心がけました。

（４）課題・今後の方針

- 高齢化率の増加に伴い、総ケアプラン数が年々増加しています。
- 社会全体が少子高齢化に伴う担い手不足に陥っており、委託を担うケアマネジャーが不足しています。
- 健康で自立できるようなケアマネジメントを推進するだけでなく、必要な方には必要なサービスが届くよう、持続可能な介護保険サービスの仕組みの検討が必要です。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
20,471,137 円	介護保険事業収入	2 0 1 6 年度

認知症啓発事業業務（市受託事業）

（１）事業概要

コロナ禍における新たな認知症に対する理解の普及・啓発のため、屋外でできる活動を中心に取り組み、認知症の方にもやさしいまちづくりをめざした周知啓発活動につなげます。

（２）実施内容・実績

【認知症普及・啓発業務】

プログラム	実施回数	実績
認知症卓球クラブ中田会	12回	地域交流館や中学校の体育館で実施 認知症高齢者も含めた卓球が好きな方々の居場所づくり
ほうかつ GARDEN	通年	認知症当事者と家族、子ども福祉委員協働による花壇づくり
行こう、歩こう、はんな ん街道	6回	下荘、箱作、桃の木台の地域の旧街道を歩く フレイル予防、認知症の方の居場所づくり

（３）成果・評価

- コロナ禍で閉じこもりがちな高齢者が習慣的に歩くことを目標とした居場所が開催できました。
- 学生たちが、認知症高齢者と活動を通して交流することで、将来の地域の担い手となることが期待できます。

（４）課題・今後の方針

- 地域に住む住民と一緒に取り組む視点を継続し、認知症当事者の居場所づくりを進めていきます。

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）配置促進事業（市受託事業）

（１）事業概要

地域における子どもの貧困や不登校の問題、ひきこもりなどに伴う社会的孤立や複数の福祉課題を抱える要援護者世帯を地域全体で支える地域福祉のセーフティネットづくりを進めます。関係機関や団体が参画する地域福祉ネットワークの構築をすすめ、地域の社会資源や住民団体等とも連携し、CSW 事業が有効に機能するよう取り組みます。

（２）実施内容・実績

○総合相談窓口の開設

- ・高齢者、障がい者、ひとり親家庭、生活困窮者等の「制度の狭間にある方」への伴走型相談支援
- ・ほっこり相談等、住民等と協働した身近な困りごとキャッチ
- ・地域のサロンやカフェへの出張相談
- ・既存の公的サービス等との協働（つなぎ）、各種サービスの利用申請

相談件数… 1, 292件

○地域福祉ネットワークの構築と連携

- ・校区(地区)福祉委員、民生委員児童委員、地域福祉活動団体、福祉関係機関や地域住民、行政等とのネットワーク体制の構築

○児童分野の機関との連携

- ・児童分野に関する地域での居場所づくり（出張ボッチャ、子ども食堂など）
- ・SSW と CSW の連携
- ・子ども福祉委員の運営支援
- ・登下校時の見守り

○社会参加・居場所づくり推進事業

- ・まちなかサロン・カフェをはじめとする地域への居場所への参加促進
- ・子どもから高齢者まで、誰もが参加できる居場所づくり
- ・共生型サロン「きらきら」の運営支援
- ・ボッチャの定期開催、地域や当事者組織などへの展開（あざみ会、箱作地区福祉員会）

○災害時要援護者支援推進事業（くらしの安心ダイヤル事業の推進）

- ・校区（地区）福祉委員・民生児童委員との連携した要援護者の見守り、発見、相談等の協働支援
- ・くらしの安心ダイヤルの登録（新規申請数70件）、更新作業

○各種任意事業への協力

- ・緊急通報装置設置事業の訪問調査及び申請等の代行（新規申請数12件）
- ・ふれあい収集事業の調査協力

○重層的支援体制整備事業

- ・毎月の会議への出席
- ・各支援機関と関係を構築し、複合的な問題を抱えている世帯へのアプローチ

○地域福祉計画策定及び推進事業

- ・地域福祉計画の策定や地域共生社会実現のための会議等への参加・協力

○各種保健福祉サービス等の周知啓発活動

- ・地域に出向いたアウトリーチ型の周知啓発活動
- ・周知啓発用のチラシ作成（各種制度チラシ、地域版つながりレターなど）

○研修参加

- ・重層的支援体制構築推進人材養成研修（計7回）
- ・泉州ブロックCSW連絡会研修
- ・阪南市地域づくり担い手研修

（３）成果・評価

- コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の周知が地域や多機関にされつつあり、高齢者だけではなく子どもや障がい者、ひきこもりなどに関する相談件数が増えています。また、そういったケースにおいて関係機関と連携できることにより、早期対応に繋がっていると感じています。
- 関係機関との連携に関しては、重層的支援体制整備事業をきっかけに各連絡会や会議を通じて連携が強化されたと感じています。
- スクールソーシャルワーカー（SSW）、教育機関と地域が連携して、学校に行きづらさを感じている生徒を地域の居場所に繋げることができました。
- くらしの安心ダイヤル事業では、救急キットの更新を通じて登録者における情報共有が強化されており、民生委員さんからの早期の相談に繋がることができています。
- 地域共生型の居場所づくり（きらきら、ボッチャ楽しも会）においては、参加者である地域住民が活動を通じて様々な方々と出会うきっかけになりました。
- 緊急通報装置の申請書類を簡素化したことで、申請者の負担を軽減することができました。

（４）課題・今後の方針

- 複合的課題を抱えた世帯や、地域で孤立した独居世帯に対して、より早期の発見、介入ができる支援体制づくりが必要です。
- 地域共生型の居場所づくり（きらきら、ボッチャ楽しも会）においては、コロナの影響が緩和されて居場所を求めている方や福祉関係事業所、関係団体の参加が増加しており、より必要性を感じられます。しかし、開催場所やスタッフの人員不足など持続した活動への体制を整える必要があります。
- 移動手段がネックになり居場所に繋ぐことが困難なことがあります。
- 若年層（40代～）におけるひきこもり世帯の相談が増えていますが、その当事者の居場所も不足していると感じます。新たな居場所の発掘や創設が必要です。
- くらしの安心ダイヤル事業において、救急キットの更新作業が定着しておらず、登録内容が更新されていない地区があるため、定期的の実施できるよう体制づくりを進めていく必要があります。
- 児童における関係機関との連携不足もあり、地域における児童の課題等を把握できていないのが現状です。学校関係機関（スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、教育委員会、子ども家庭課、保健センター等）との連携を強化し、学齢期における支援ネットワークの拡充に努めます。
- 校区（地区）福祉委員会活動とも連携し、地域活動との連携強化に努めます。

事業費総額（円）	財源	事業開始年度
9,720,871 円	市委託料収入	2020年度

その他の会議・研修等

① 地域包括ケアに関連する会議

【会議名：阪南市介護保険・地域密着型サービス・地域包括支援センター運営協議会】

日 時	名 称 (主催／場所)	参加者
令和5年2月13日	阪南市介護保険・地域密着型サービス・地域包括支援センター運営協議会（阪南市／阪南市）	熊抱

【会議名：阪南市地域包括支援センター連絡会議】

日 時	名 称 (主催／場所)	参加者
令和4年4月15日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／阪南市）	熊抱
令和4年5月20日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／阪南市）	熊抱
令和4年6月18日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／阪南市）	熊抱
令和4年7月15日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／阪南市）	熊抱
令和4年8月20日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／阪南市）	熊抱
令和4年9月16日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／阪南市）	熊抱
令和4年10月22日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／阪南市）	熊抱
令和4年11月18日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／阪南市）	熊抱
令和4年12月16日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／阪南市）	熊抱
令和5年1月20日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／阪南市）	熊抱
令和5年2月17日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／阪南市）	熊抱
令和5年3月17日	阪南市・地域包括支援センター連絡会（阪南市／阪南市）	熊抱

【会議名：3市3町地域包括支援センター連絡会・情報連絡会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和4年12月15日	3市3町地域包括支援センター連絡会（3市3町地域包括支援センター連絡会／泉佐野市社会福祉センター）	熊抱
令和5年2月20日	3市3町地域包括支援センター情報交換会（3市3町地域包括支援センター連絡会／阪南市民病院）	熊抱

【会議名：阪南市・阪南市地域包括支援センター主任ケアマネジャー会議】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和4年7月1日	主任ケアマネ会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	寺井
令和4年8月6日	主任ケアマネ会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	寺井
令和4年9月2日	主任ケアマネ会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	寺井
令和4年9月12日	主任ケアマネ会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	寺井
令和4年10月3日	主任ケアマネ会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／サラダホール）	寺井
令和4年10月4日	主任ケアマネ会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	寺井
令和4年11月2日	主任ケアマネ会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	寺井
令和4年12月15日	主任ケアマネ会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	寺井
令和5年1月11日	主任ケアマネ会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	寺井

令和5年2月1日	主任ケアマネ会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	寺井
令和5年3月1日	主任ケアマネ会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	寺井

【会議名：阪南市・阪南市地域包括支援センター医療職会議】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和4年8月1日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	大塚、渡辺
令和4年9月12日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	大塚、渡辺
令和4年10月2日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	大塚、渡辺
令和4年11月15日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	大塚、渡辺
令和4年12月12日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	大塚、渡辺
令和5年1月11日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	大塚、渡辺
令和5年2月24日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	大塚、渡辺
令和5年3月23日	医療職会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	大塚、渡辺

【会議名：阪南市地域包括支援センター社会福祉士会議】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和4年8月1日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱
令和4年9月1日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	熊抱
令和4年10月6日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	熊抱

令和4年11月14日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／西鳥取・下荘地域包括支援センター）	熊抱
令和4年12月9日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱
令和5年1月18日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／阪南市）	熊抱
令和5年2月2日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／阪南市）	熊抱
令和5年3月2日	社会福祉士会議（尾崎・東鳥取、西鳥取・下荘地域包括支援センター／尾崎・東鳥取地域包括支援センター）	熊抱

【会議名：阪南市西鳥取・下荘地域包括支援センター職員会議】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和4年4月26日	阪南市西鳥取・下荘地域包括支援センター職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	職員複数名
令和4年6月28日	阪南市西鳥取・下荘地域包括支援センター職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	職員複数名
令和4年7月26日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	職員複数名
令和4年8月23日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	職員複数名
令和4年9月27日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	職員複数名
令和4年10月25日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	職員複数名
令和4年12月20日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	職員複数名
令和5年1月24日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	職員複数名
令和5年2月28日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	職員複数名
令和5年3月28日	西包括職員会議（西鳥取・下荘地域包括支援センター／同センター内）	職員複数名

【会議名：校区福祉委員会委員長事務長会議】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和4年5月13日	校区福祉委員会校区長事務長会議（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱
令和4年7月8日	校区福祉委員会校区長事務長会議（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱
令和4年11月11日	校区福祉委員会校区長事務長会議（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱
令和5年1月13日	校区福祉委員会校区長事務長会議（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	熊抱

② その他、関連する研修等

【資質向上、新任研修会等】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和4年4月19日	大阪府市町村社協新任職員研修（大阪府社会福祉協議会／大江ビル）	渡辺
令和4年4月27日	大阪府市町村社協新任職員研修（大阪府社会福祉協議会／オンライン）	渡辺
令和4年5月2日	大阪府市町村社協新任職員研修（大阪府社会福祉協議会／オンライン）	渡辺
令和4年5月10日	大阪府市町村社協新任職員研修（大阪府社会福祉協議会／オンライン）	渡辺
令和4年5月17日	大阪府市町村社協新任職員研修（大阪府社会福祉協議会／大江ビル）	渡辺
令和5年2月22日	介護事業所のための業務継続計画（BCP）作成セミナー（大阪府／オンライン）	熊抱

【地域包括ケアに関連する研修等】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和4年6月12日	大阪介護支援専門員協会「泉州南支部」研修（大阪府介護支援専門員協会「泉州南支部」／ケアプランセンターきずな）	寺井
令和4年6月25日	熱中症アドバイザー研修（阪南市／オンライン）	大塚
令和4年8月30日	介護予防ケアマネジメント担当者研修（大阪府／オンライン）	渡辺

令和4年9月15日	個別支援計画策定研修（大阪府／危機管理センター）	熊抱
令和4年12月3日	高齢社会を共に生きる（ニッセイ財団／オンライン）	熊抱
令和5年1月16日	介護予防ケアマネジメント担当者研修（大阪府／オンライン）	渡辺

【医師会・在宅医療関係研修会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和4年11月19日	チーム包括つながろう包括保健師職（大阪公立大学看護実践研究センター／オンライン）	大塚
令和4年12月10日	在宅医療における ACP 研修（大阪府／オンライン）	大塚
令和4年12月10日	3市3町多職種連携研修会（泉佐野泉南医師会／オンライン）	熊抱、寺井
令和4年12月19日	地域包括ケアシステム充実強化研修（大阪府／オンライン）	熊抱
令和5年1月21日	チーム包括つながろう包括保健師職（大阪公立大学看護実践研究センター／オンライン）	大塚

【認知症関係研修会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和4年9月3日	認知症サポート医フォローアップ研修（大阪府医師会／オンライン）	大塚
令和4年10月15日	DLB フォーラム 2022（住友ファーマ株式会社／オンライン）	大塚
令和5年2月17日	キャラバンメイト養成研修（大阪府／国民会館）	西崎

【人権、権利擁護、虐待関係研修会】

日 時	名 称（主催／場所）	参加者
令和4年7月26日	人権ヒューマンライツセミナー（阪南市／尾崎公民館）	渡辺
令和4年8月26日	人権ヒューマンライツセミナー（阪南市／尾崎公民館）	大塚、尾崎
令和4年9月9日	権利擁護支援研修（厚労省／オンライン）	熊抱

【講師協力、視察研修等】

日 時	名 称（主催／場所）	対応
令和5年2月1日	第3層生活支援コーディネーター養成研修（阪南市社会福祉協議会／地域交流館）	大塚、尾崎 西崎

不動産賃貸事業

(1) 事業概要

収益事業として法人が有する不動産を貸出し、得た賃料を自主財源として法人運営等に活用することで、法人の安定した運営を目指します。

(2) 実施内容・実績

【内容】

- 自然田土地の賃貸事業
- 尾崎駅前土地の賃貸事業
- 尾崎駅前建物の賃貸事業

【実績】

内 訳	金 額	実 績
自然田土地受取地代	150,000 円/月額	1,800,000 円
尾崎駅前土地受取地代	77,000 円/月額	924,000 円
尾崎駅前建物受取家賃	49,500 円/月額	594,000 円

(3) 課題・今後の方針

継続して、賃貸料を得られるよう管理運営を行います。

事業費総額（円）	財 源	事業開始年度
3,318,000 円	不動産賃貸事業収入	令和 2 年 4 月